LS500

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジンの始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方..... 9
検索のしかた..... 10
イラスト目次..... 11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ..... 31
ポップアップフード..... 37
排気ガスに対する注意..... 39

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート..... 42

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 57
オートアラーム..... 58

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 64
計器類（F SPORT 以外）..... 68
計器類（F SPORT）..... 71
マルチインフォメーションディスプレイ 76
ヘッドアップディスプレイ 83
燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面 87

3 運転する前に

3-1. キー
キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 96
トランク 102
スマートエントリー＆スタートシステム..... 109

3-3. シートの調整
フロントシート 115
パワーリヤシート 121
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能..... 127
リヤシートポジションメモリー .. 131
ヘッドレスト 133

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 136
デジタルインナーミラー..... 137
ドアミラー 145

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 148
ムーンルーフ 151

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 156
荷物を積むときの注意..... 163

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 164
オートマチックトランスミッション 168
方向指示レバー 174
パーキングブレーキ..... 175
ブレーキホールド 178

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 180
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 183
マルチウェザーライト..... 187
リヤフォグランプ 188
ワイパー＆ウォッシャー..... 189

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 193

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + A 195

PCS（プリクラッシュセーフティ） 201

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 214

LTA（レーントレーシングアシスト） 217

RSA（ロードサインアシスト）... 230

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 233

先行車発進告知機能..... 244

ドライバー異常時対応システム . 247

ITS Connect..... 252

Stop & Start システム..... 259

BSM（ブラインドスポットモニター） 267

PKSA（パーキングサポートアラート） 272

クリアランスソナー..... 273

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 279

RCD（リヤカメラディテクション） 283

PKSB（パーキングサポートブレーキ） 286

パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 291

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 293

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 295

ドライブモードセレクトスイッチ 297

電子制御エアサスペンション 299

運転を補助する装置..... 302

プラスサポート（販売店装着オプション）..... 309

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 313

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ／ディスプレイ

リモートタッチ 318

センターディスプレイ.....320

リヤマルチオペレーションパネル 322

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 325

5-3. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン.....327

リヤオートエアコン.....337

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター ...340

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 344

5-5. 収納装備

収納装備一覧 348

トランク内装備 354

5-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 357

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 366

内装の手入れ 369

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 372

ガレージジャッキ 373

エンジンルームカバー.....374

ウォッシャー液の補充.....377

タイヤについて 377

タイヤの交換 386

タイヤ空気圧について.....389

エアコンフィルターの交換.....390

電子キーの電池交換.....392

ヒューズの点検・交換 394
電球（バルブ）の交換 396

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 398
非常点滅灯（ハザードランプ）... 399
発炎筒 399
車両を緊急停止するには 400
水没・冠水したときは 401

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 403
フューエルポンプシャットオフシステム 408
警告灯がついたときは 409
警告メッセージが表示されたときは 417
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 419
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）..... 428
エンジンがかからないときは 429
キーをなくしたときは 431
給油扉が開かないときは 431
電子キーが正常に働かないときは 432
バッテリーがあがったときは 434
オーバーヒートしたときは 441
スタックしたときは..... 444

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 446

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 451

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 465

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....468
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....470
アルファベット順さくいん.....472
五十音順さくいん 474

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + A のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペ

ダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ
● Lexus Safety System + A
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.309）の機能

が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について

記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.474
●アルファベット順さくいん：P.472

■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.11

■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.468
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.470

■ タイトルから探す

●目次：P.2

イラスト目次

■ 外観

A ドア.....P.96

施錠／解錠.....P.96

ドアガラスの開閉.....P.148

メカニカルキーでの施錠／解錠.....P.432

警告メッセージ.....P.417

B トランク.....P.102

車内から開ける.....P.104

車外から開ける.....P.104

メカニカルキーで開ける.....P.433

警告メッセージ.....P.417

C ドアミラー.....P.145

鏡面の角度調整.....P.145

ミラーの格納.....P.146

調整位置の登録.....P.127

曇りを取る（ミラーヒーター）.....P.327

D ワイパー.....P.189
冬季の注意.....P.313
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P.331
洗車時の注意.....P.367
E 給油口.....P.193
給油方法.....P.193
燃料の種類・燃料タンク容量.....P.446
F タイヤ.....P.377
サイズ・空気圧.....P.377, 449
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P.313
点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P.377
パンク時の対処.....P.419, 428
G ボンネット.....P.372
開け方.....P.372
エンジンルームカバー.....P.374
エンジンオイル.....P.446
オーバーヒート時の対処.....P.441
警告メッセージ.....P.417

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.396）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイタイムランニングランプ・コーナーリングランプP.180
I 方向指示灯.....P.174
J 尾灯.....P.180
制動灯
ヒルスタートアシストコントロール.....P.302
K 番号灯.....P.180
L 後退灯
シフトポジションを R にする.....P.169
M リヤフォグランプ★.....P.188

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

A エンジンスイッチ P.164

エンジンの始動・モード切りかえ P.164

エンジンの緊急停止 P.400

エンジンが始動できないときの対処 P.429

警告メッセージ P.417

B シフトレバー P.168

シフトポジションの切りかえ P.169

けん引時の注意 P.403

C メーター P.68, 71

見方・明るさの調整 P.68, 70, 71, 75

警告灯／表示灯 P.64

警告灯点灯時の対処 P.409

D マルチインフォメーションディスプレイ P.76

表示内容 P.76

警告メッセージ表示時の対処 P.417

E パーキングブレーキスイッチ.....P.175
かける・解除する.....P.175
冬季の注意.....P.315
警告ブザー・警告メッセージ.....P.417
F 方向指示レバー.....P.174
ランプスイッチ.....P.180
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイタイムランニングランプ.....P.180
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....P.183
マルチウェザーライト.....P.187
リヤフォグランプ★.....P.188
G ワイパー＆ウォッシャースイッチ.....P.189
使い方.....P.189
ウォッシャー液の補充.....P.377
警告メッセージ.....P.417
H 非常点滅灯スイッチ.....P.399
I ボンネット解除レバー.....P.372
J ハンドル位置調整スイッチ.....P.136
調整方法.....P.136
調整位置の登録.....P.127
K オートエアコン.....P.327
操作方法.....P.327
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....P.327
L オーディオ※
M ブレーキホールドスイッチ.....P.178
N トランクオープナーメインスイッチ.....P.108

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類

A ドライブモードセレクトスイッチ.....P.297

B VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ.....P.303
スノーモードスイッチ P.171

C HUD スイッチ P.83

D カメラスイッチ ※

E Stop & Start キャンセルスイッチ.....P.266

F トランクオープナースイッチ.....P.104

G 給油扉オープナースイッチ.....P.194

H “ODO TRIP” スイッチ.....P.70, 74

I インストルメントパネル照度調整スイッチ P.70, 75

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

A ポジションメモリーボタン.....P.127
B 助手席操作モードボタン P.117
C ウインドウロックスイッチ.....P.150
D パワーウインドウスイッチ.....P.148
リヤドアサンシェードスイッチ★ P.361
E ドアロックスイッチ P.99
F ドアミラースイッチ P.145

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

A メーター操作スイッチ P.77

B パドルシフトスイッチ P.172, 173

C 電話スイッチ ※

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ.....P.217

E 車間距離切りかえスイッチ.....P.237

F クルーズコントロールスイッチ.....P.233

G オーディオ操作スイッチ ※

H トークスイッチ ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

A 車高選択スイッチ P.299

B リヤサンシェードスイッチ.....P.363

C ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレータースイッチ P.340

D シートスイッチ P.117

E リモートタッチ ※ P.318

F P ポジションスイッチ.....P.169

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 室内

A SRS エアバッグ P.31

B フロアマット P.24

C フロントシート P.115

D ヘッドレスト P.133

E シートベルト P.27

F ドアロックボタン P.99

G コンソールボックス P.351

H カップホルダー P.350

I アシストグリップ P.358

J コートフック P.358

K リヤマルチオペレーションパネル★.....P.322

L リヤシートエンターテインメントシステム★※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 天井

A ムーンルーフスイッチ★ P.151

B パーソナルランプ P.345

C ヘルプネットスイッチパネル ※1

D 小物入れ P.352

E インテリアランプドア連動スイッチ P.345

F デジタルインナーミラー P.137

G インテリアランプ P.345

H 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.60

I バニティミラー P.361

J サンバイザー ※2 ..... P.361

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.45）

AIRBAG

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24

安全なドライブのために 25

シートベルト 27

SRS エアバッグ 31

ポップアップフード 37

排気ガスに対する注意 39

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 41

チャイルドシート 42

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム 57

オートアラーム 58

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

●エンジン停止およびシフトポジションがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.115）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.115）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.133）

D シートベルトを正しく着用する（→P.27）

警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.27)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.137, 145)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまをのせるとき

→P.53

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタン A を押してください。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動か

せば、ベルトを引き出すことができます。

イージーアクセスバックル（フロント席）★

ベルトを固定・解除しやすいよう、バックルが自動で動きます。

▶ 乗車時

運転席または助手席のドアを開けると、それぞれのバックルが上に動きます。プレートをバックルに挿し込むと、もとの位置にもどります。

▶ 降車時（運転席のみ）

ベルトを締めたままエンジンスイッチを OFF にすると、バックルが上に動きます。ベルトをはずすと、もとの位置にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■イージーアクセスバックルの作動について

●バックルが上がった状態でプレートを挿し込まなかった場合でも、助手席に乗員がいない状態で走行すると、バックルはもとの位置にもどります。

●降車後、ドアを開けたまま再度乗り込んでもバックルは作動しません。もう一度ドアを開閉することでバックルが作動します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクティブアシスト（フロント席）

車速が約 20km/h 以上になると、シートベルトをわずかに巻き取ります。
衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。（→P.202）

知識

■アクティブアシストについて

シートベルトを解除したときや乗車時にフロント席ドアを開けたとき、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置

▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS リヤサイドエアバッグ
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

E SRS カーテンシールドエアバッグ

（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

F SRS シートクッションエアバッグ★

（リヤ外側席乗員の拘束に寄与）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→P.97）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.303）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.346）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.399）

●燃料供給を停止します。（→P.408）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって側面衝突の可能性が高いと判断されたとき、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグの作動準備を整えます。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ／ SRS シートクッションエアバッグ）

●フロント SRS エアバッグ・SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

●後席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約

1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS シートクッションエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ／ SRS シートクッションエアバッグ）

フロント SRS エアバッグ・SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグ・SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転

SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動し

ません。

●後方からの衝突

●横転

■レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグ・SRS シートクッションエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS シートクッションエアバッグ装着車：シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.42)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P.420）

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

警告

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部・フロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカー周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品

A センサー

B ボンネット

C リフター

知識

■ポップアップフードについて

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高

いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

●作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）

●その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
・縁石に衝突したとき
・深い溝や穴に落ち込んだとき
・ジャンプして地面にぶつけたとき
・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

●横たわっている人に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。

●ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■ポップアップフードについて

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

注意

- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

警告

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.101）・ウインドウロックスイッチ（→P.150）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.42）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.42

チャイルドシートを使用するときは：P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.46

チャイルドシートの取り付け方法：P.51

・ シートベルトで固定する：P.52

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.54

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.55

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.46）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす
- クッション前端をいちばん下に下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ランバーサポートをいちばんうしろに下げる
- ショルダーサポート★をいちばんうしろに下げる
- ペルビックサポートをいちばんうしろに下げる
- バックサイドサポート★をいちばん開く
- クッションサイドサポート★をいちばん開く
- ヒップサポート★をいちばん下に下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **パワーリヤシート★にチャイルドシートを取り付けるとき**

パワーリヤシートにチャイルドシートを取り付ける場合には、パワーリヤシートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● 背もたれを可能な限り起こす

● クッション前端をいちばん下に下げる

● ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする

● ショルダーサポートをいちばんうしろに下げる

● ランバーサポートをいちばんうしろに下げる

● ペルビックサポートをいちばんうしろに下げる

● 自動シート作動を OFF にする

（→P.126）

● オットマン付きシート★：背もたれをいちばん上まで起こし、オットマン（フットレスト）を格納する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ **チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.50）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク※2 対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク※2 対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehiclespecific（特定車両）」

※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

① ※1, 2, 3	U L ※4
② ※2, 3	U L
③ ※2, 3	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.50）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置 (有 / 無)	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無)	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具 (L1/L2)	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具 (R1/R2X/R2/R3)	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具 (F2X/F2/F3)	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具 (B2/B3)	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ **推奨チャイルドシートと適合性一覧表**

▶ パワーリヤシート非装着車

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
II、III (15 ～ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	×	○	○

▶ パワーリヤシート装着車

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
II、III (15 ～ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	×	×	×

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してださい。

● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.52
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.54
テザーベルトを固定する		P.55

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.47, 47）

1 助手席：
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

パワーリヤシート★：
背もたれとチャイルドシートの間

にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。（→P.44）

2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.53）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.47, 47）

1 パワーリヤシート★：背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 カバーを開ける

3 カバー裏面のスリット A にプレート B を挿し込む

カバーが開いた状態で保持されます。

4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.53）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ **テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する**

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.53)

A フック

B テザーベルト

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

■**トップテザーアンカレッジについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンス

は不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定のＥメールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

●メカニカルキーを使ってトランクを解錠したとき

●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき
（→P.438）

■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.58)

■ 侵入・傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き

●蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■傾斜センサーについての留意事項

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

注意

■**侵入センサーを正しく作動させるために**

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 64
計器類（F SPORT 以外）..... 68
計器類（F SPORT）..... 71
マルチインフォメーションディスプレイ 76
ヘッドアップディスプレイ 83
燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面 87

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

メーターの表示状態によって、一部の警告灯／表示灯の位置が異なります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.409）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.409）

高水温警告灯 ※2（→P.409）

充電警告灯 ※2（→P.409）

油圧警告灯 ※2（→P.410）

エンジン警告灯 ※1
（→P.410）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.410）

ポップアップフード警告灯 ※1
（→P.410）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.410）

ペダル誤操作警告灯 ※2
（→P.411）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.411）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.411）

燃料残量警告灯（→P.411）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.412）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（F SPORT 以外）（→P.412）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（F SPORT）（→P.412）

タイヤ空気圧警告灯 ※1
（→P.412）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.413）

（橙色）
LCA 表示灯（→P.413）

（点滅）
Stop & Start キャンセル表示灯 ※1（→P.413）

（点滅）
RCD OFF 表示灯（→P.413）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1（→P.414）

スリップ表示灯 ※1
（→P.414）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯
（→P.414）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.414）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

- 方向指示表示灯（→P.174）
- 尾灯表示灯（→P.180）
- ハイビーム表示灯（→P.182）
- AHS 表示灯（→P.184）
- マルチウェザーライト表示灯（→P.187）
- リヤフォグランプ表示灯★（→P.188）
- PCS 警告灯 ※1, 2（→P.205）
- クルーズコントロール表示灯（→P.233）
- レーダークルーズコントロール表示灯（→P.233）
- クルーズコントロールセット表示灯（→P.233）
- LTA 表示灯（→P.223）※3
- LCA 表示灯（→P.223）（白色）
- LCA 表示灯（→P.223）（緑色）
- BSM ドアミラーインジケーター ※1, 4（→P.267, 279）
- BSM OFF 表示灯 ※1, 2（→P.267）
- クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.274）
- RCTA OFF 表示灯 ※1, 2（→P.279）
- RCD OFF 表示灯 ※2（→P.284）
- PKSB OFF 表示灯 ※1, 2（→P.288）
- Stop & Start 表示灯 ※1（→P.259）
- Stop & Start キャンセル表示灯 ※1, 2（→P.266）
- スリップ表示灯 ※1（→P.303）（点滅）
- VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.304）
- エアサスペンション HIGH モード表示灯（→P.300）
- スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※5（→P.164）
- パーキングブレーキ表示灯（→P.175）
- ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.178）
- ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.178）
- エコドライブインジケーターランプ ※1（→P.79）

低温表示灯 ※6（→P.68, 71）

セキュリティ表示灯 ※7
（→P.57, 58）

ITS Connect アイコン
（→P.253）

ITS Connect アイコン
（→P.253）

ITS Connect アイコン
（→P.253）

プラスサポート表示灯★
（→P.309）

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外

スノーモード表示灯
（→P.171）

ノーマルモード表示灯
（→P.297）

カスタムモード表示灯
（→P.297）

コンフォートモード表示灯
（→P.297）

エコドライブモード表示灯
（→P.297）

スポーツ S モード表示灯
（→P.297）

スポーツ S+ モード表示灯
（→P.297）

▶ F SPORT

スノーモード表示灯
（→P.171）

ノーマルモード表示灯
（→P.297）

カスタムモード表示灯
（→P.297）

コンフォートモード表示灯
（→P.297）

エコドライブモード表示灯
（→P.297）

スポーツ S モード表示灯
（→P.297）

スポーツ S+ モード表示灯
（→P.297）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※4 ドアミラーに表示されます。

※5 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※6 外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7 センターパネルに表示されます。

計器類（F SPORT 以外）

メーターの表示について

■ 計器類の位置

A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B シフトレンジ・ギヤ段表示（→P.168）

C シフトポジション表示灯（→P.169）

D 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.359）

E タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。
走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。

F スピードメーター

G 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.70）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

・ 坂道やカーブを走行したとき

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.76）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.417）

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.77

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、計器類の表示を変更できます。（→P.81）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

● タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

● 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.441）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

■ 割り込み表示

状況に応じて次の情報が割り込み表示されます。

● アイドリングストップ時間（→P.259）

● Stop & Start システムの作動状態（→P.264）

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 暗くする

2 明るくする

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

● 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

● 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

計器類（F SPORT）

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。（→P.75）

▶ メーターリング中央時

A シフトポジション表示灯（→P.169）

B 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

C 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.359）

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。
走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。
・ REV インジケーター（→P.73）
・ REV ピーク（→P.73）

E シフトポジション・シフトレンジ・ギヤ段表示（→P.168）

F スピードメーター

G 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.74）

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.76）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.417）

▶ メーターリング移動時

A 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.359）

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。
走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。
・ REV インジケーター（→P.73）
・ REV ピーク（→P.73）

D シフトポジション・シフトレンジ・ギヤ段表示（→P.168）

E スピードメーター

F シフトポジション表示灯（→P.169）

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.74）

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

I 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.76）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.417）

■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーター（A）を表示します。

設定したエンジン回転数に到達したときは橙色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、表示開始するエンジン回転数を設定できます。（→P.81）

■ REV ピーク

5000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 1 秒間表示します。

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.77

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、計器類の表示を変更できます。（→P.81）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計のバー表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.441）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

■ **割り込み表示**

状況に応じて次の情報が割り込み表示されます。

● アイドリングストップ時間（→P.259）

● Stop & Start システムの作動状態（→P.264）

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 暗くする

2 明るくする

知識

■ **メーターの照度について（昼照度と夜照度）**

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

● 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

● 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

メーターの表示・配置を切りかえるには

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示（F SPORT以外）

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ ディスプレイの表示（F SPORT）

▶ メーターリング中央時

走行に関するさまざまな情報を表示します。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

▶ メーターリング移動時

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。

F SPORT：メーターリング移動時のみ表示されます。

走行情報表示（→P.77）

ナビゲーションシステム連携表示（→P.80）

オーディオシステム連携表示（→P.81）

運転支援機能情報（→P.81）

警告メッセージ（→P.417）

設定（→P.81）

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.69, 74

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

A ＜／＞：メニューの切りかえ
∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット

C メーターリング移動※・ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※F SPORT

走行に関する情報について

■ 表示項目（F SPORT 以外）

メーター操作スイッチの＜または＞を押して ⓘ を選択し、∧または∨を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● Stop & Start システム情報
● エコドライブインジケーター
● ブーストメーター
● タイヤ空気圧（→P.380）
● 表示 OFF

■ 表示項目（F SPORT）

▶ メーターリング中央時

メーター操作スイッチの∧または∨を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● タイヤ空気圧（→P.380）
● Gear Position
● 表示 OFF

● 運転支援システム情報※
（→P.81）

※LTA（レーントレーシングアシスト）／レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）使用時に表示されます。（→P.217, 233）

▶ メーターリング移動時

メーター操作スイッチの < または > を押して ⓘ を選択し、∧ または ∨ を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● Stop & Start システム情報
● エコドライブインジケーター
● ブーストメーター
● G モニター
● Gear Position
● タイヤ空気圧（→P.380）
● 表示 OFF

■ **ドライブインフォメーション 1／2**

表示される数値は参考として利用してください。

● ドライブインフォメーション 1

・ 瞬間燃費
・ リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション 2

・ 航続可能距離
・ リセット間平均車速

表示する項目は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。（→P.81）

表示できる項目は次のとおりです。

● 瞬間燃費

バー表示：現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセット間：リセット後の平均燃費を表示※1

始動後：エンジン始動後の平均燃費を表示

給油後：給油後の平均燃費を表示

● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示※1

始動後：エンジン始動後の平均車速を表示

● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示※1

始動後：エンジン始動後の経過時間を表示

● 距離

航続可能距離：燃料残量による走行可能な距離を表示※2, 3

始動後：エンジン始動後の走行距離を表示

● その他

ブランク：非表示

※1リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

※2運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※3燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.69, 73）

■ Stop & Start システム情報

● 表示項目

・ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。
また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→P.264）

・ エンジン始動後のアイドリングストップ時間

・ リセット後のアイドリングストップ時間

● Stop & Start 設定

メーター操作スイッチの OK を押すと、Stop & Start システムの設定画面が表示されます。
設定画面では、次の設定を行うことができます。

・ Stop & Start

エアコンの “A/C” を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。
この設定はメニューアイコンの から も変更することができます。

・ リセット

アイドリングストップ時間・節約燃料をリセットします。
リセットするには、カーソルを “リセット” に合わせた状態で OK を長押しします。

・ 表示項目の切りかえ

エンジン始動後／リセット後のアイドリングストップ時間を、エンジン始動後／リセット後の節約燃費※ に切りかえることができます。

※ 表示される節約燃費は参考として利用してください。

■ エコドライブインジケーター

A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

■ ブーストメーター

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示色がかわります。

路面状況・気温・車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

■ G モニター（F SPORT）

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。
また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

D アクセル開度量

E ブレーキ液圧

F ステアリング操作量

路面状況・気温・車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

メーター操作スイッチの OK を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

■ Gear Position（F SPORT）

シフトポジションが D または M のとき、現在選択されているシフトレンジ・ギヤ段を表示することができます。

知識

■エコドライブインジケーターについて

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

● シフトポジションが D 以外にあるとき

● パドルシフトスイッチを操作しているとき

● 走行モードがスポーツモードのとき

● 走行モードがカスタムモードで、パワートレーンの制御を Power にしているとき（→P.297）

● スノーモードを選択しているとき

● 車速が約 100km/h 以上のとき

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地案内

● レーン（車線）案内

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

知識

■目的地案内について

ヘッドアップディスプレイの目的地案内表示を ON にしている場合、メーター側

の目的地案内は非表示になります。
（→P.85）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.217）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）

● RSA （ロードサインアシスト）（→P.230）

● ITS Connect（→P.252）

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位の単位を選択することができます。

● 車速表示（F SPORT 以外）

スピードメーターの表示を、デジタル／アナログ／両方表示から選択することができます。

● ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（→P.78）

● 時計

12 時間表示／ 24 時間表示を切りかえることができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● テーマカラー

カーソルの色などを変更することができます。

● REV インジケーター（F SPORT）

・REV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

・REV インジケーター（橙色）が表示されるエンジン回転数を変更することができます。

● REV ピーク（F SPORT）

REV ピークの作動・非作動を切りかえることができます。

● エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.451

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停

車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにランプスイッチがAUTOの状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

このとき “はい” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “はい” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品

イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。

・ スピードメーター
・ シフトポジション・シフトレンジ・ギヤ段表示（→P.168）

B RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.230）

C 運転支援システム表示エリア（→P.86）

D ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

・ 交差点名
・ 目的地案内
・ レーン（車線）案内

E タコメーター／エコドライブインジケーター表示エリア（→P.87）

F HUD スイッチ

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

■外気温表示について

●次の場合、外気温が表示されます。
・外気温が約 3゜C 以下のとき（この場合、外気温が約 10 秒間表示され、同時に低温表示灯が点滅します）
・オープニング画面が表示されたあと（外気温が約 10 秒間表示されます）

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

HUD スイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。

■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、次の設定を変更することができます。（→P.451）

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● タコメーター／エコドライブインジケーター

タコメーター／エコドライブインジケーター／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

● 表示内容

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・ 目的地案内

・ レーン表示

・ 運転支援システム表示 ※

・ オーディオ表示

※ 運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.127）

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

⚠ 警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.217）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.201）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）（→P.214）
- 先行車発進告知機能（→P.244）
- ドライバー異常時対応システム※（→P.247）
- ITS Connect（→P.252）
- クリアランスソナー（→P.273）
- パーキングサポートブレーキ（静止物）（→P.291）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.157）
- ドライブスタートコントロール（→P.162）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

※ 仕様によっては表示されない場合があります。

■ ⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

⚠：マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.417）

ⓘ：インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス（→P.82）や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

- 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

- ETC に関する通知

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

タコメーター／エコドライブインジケーター

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター

A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.79を参照してください。

燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品

A センターディスプレイ

B “MENU” ボタン

C タッチパッド

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、を選択する

画面に直接タッチして選択することもで

きます。

2 “Driving Navi” を選択する

A エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じてGood・Excellentが表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

B エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

C エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

D トリップインフォメーション（前回エンジン始動～エンジン停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

E トリップインフォメーション（今回エンジン始動～現在）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F 更新スイッチ ※

走行情報などをG-Linkセンターへ送信します。

G エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

H アドバイススイッチ

ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Linkサービスをご利用されているときに表示されます。
また、センターディスプレイに通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。
G-Linkの利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ G-Linkセンターへ送信する走行情報について

G-Linkセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、ⓘを選択する

画面に直接タッチして選択することもできます。

2 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

■ **トリップインフォメーションの見方**

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。

A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離 （→P.89）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ **燃費履歴の見方**

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。

A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ **過去の区間平均燃費の記録を更新するには**

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ **燃費データをリセットするには**

“履歴消去” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ **航続可能距離について**

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

● 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、

表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.69, 73）

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→P.321）、❮または❯を選択してお好みの画面を表示します。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。

■ トリップインフォメーション（Aタイプ）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ トリップインフォメーション（Bタイプ）

航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。

表示される最新値は、参考として利用してください。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 96

トランク 102

スマートエントリー＆スタートシステム 109

3-3. シートの調整

フロントシート..... 115

パワーリヤシート..... 121

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 127

リヤシートポジションメモリー 131

ヘッドレスト 133

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 136

デジタルインナーミラー..... 137

ドアミラー 145

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ..... 148

ムーンルーフ 151

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→P.109）

・ワイヤレス機能の作動（→P.94）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→P.109）

知識

■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを

停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。(→P.111)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を非作動にすることをおすすめします。(→P.96)

■電池の交換方法

→P.392

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

注意

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.432

■電子キーを紛失したとき

→P.431

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

A ドアを施錠する（→P.96）

B ドアガラスとムーンルーフ★を閉

める※（→P.96）

C ドアを解錠する（→P.96）

D ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→P.96）

E トランクを開ける（→P.105）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.432）

知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF（→P.108）にして、グローブボックスを施錠（→P.350）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.431

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。

1 ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■降車オートロック機能※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、全てのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にある全ての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.110）でブザーが“ピピッ”と 2 回鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 ブザーが“ピピッ”と 2 回鳴ったら、電子キーの作動範囲から離れる

ブザーと非常点滅灯の点滅で施錠をお知らせします。

約 5 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態に戻ります。

■降車オートロック機能を非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と 2 回鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を非作動にした場合、次の操作で作動可能状態に戻ります。

●ドアを施錠・解錠する

●エンジンを始動する

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.60）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.58）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.58)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.111

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.432)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.392)

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.432)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
- エンジンがかかっている状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.451)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■車高制御について

次の操作をすると車高が変わる場合がありますので、十分に周囲の安全を確かめてから操作してください。車高が変わったときに、車両に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ドアを開閉する
- ドアを施錠する

車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する

■ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタン

が上がります。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するには

1 ドアロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）

●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア・トランクまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドア・トランクまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■イージークローザーについて

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.451 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

トランククローザーで閉めることもできます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。

●トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

警告

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■イージークローザーについて

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ハンズフリーパワートランクリッド★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

■パワートランクリッドの故障を防ぐために

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

スイッチを押す

自動で全開します。

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、スイッチを押す

自動で全開します。

トランクが開く途中でスイッチを押すと、

作動を停止します。

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- オートドアアンロック機能
- メカニカルキー

■ **ワイヤレス機能を使用して開く**

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴り、自動で全開します。

トランクが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

■ **ハンズフリーパワートランクリッド★を使用して開閉する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ

A キックセンサー

B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア （→P.109）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて引く

・ 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはトランク内に他の電子キーがあると、作動までの時間

が少し長くなることがあります。

A キックセンサー

B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後トランクが自動で全開・全閉します。

トランクが開く途中で再度操作をすると、作動を停止します。

トランクが閉まる途中で再度操作をすると、トランクは再び開きます。

■ トランククローザースイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴り、自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

■ トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉める。

知識

■ トランクリッドランプ／トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯します。
- エンジンスイッチが OFF の場合、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。

この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

■過負荷防止機構

トランクリッドの上に無理な力がかかっているとパワートランクリッドは作動しません。

■落下防止機構

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■挟み込み防止機構

トランクリッドが自動で閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→P.433）

トランクをメカニカルキーで開けたときは、パワートランクリッドとイージークローザーは作動しません。作動させるには、手動でトランクを全閉にしてから操作してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→P.433）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.392）

■ハンズフリーパワートランクリッド★の作動条件

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定がONで、エンジンスイッチがOFFのとき

●電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき

■ハンズフリーパワートランクリッド★が正常に作動しない状況

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワートランクリッドは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.111）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフ

リーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■**ハンズフリーパワートランクリッド★の誤作動を防ぐために**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワートランクリッドは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの脱着作業したとき

●けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■**半ドア走行時警告ブザー**

→P.100

■**カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステム・ハンズフリーパワートランクリッドでもトランクを開けられなくなります。

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

→P.95

スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.96）
- トランクを開ける（→P.104）
- エンジンを始動する（→P.164）

知識

■アンテナの位置

A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
（→P.417）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（エンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.432）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている

・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤ席後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）

・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.111）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。（→P.96）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●全てのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除

されます。
・ ブレーキペダルを踏んだとき
・ エンジンスイッチを押したとき
・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠したとき

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を非作動にする（→P.96）とき、ブザーが 2 回鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・ いずれかのドアを開けたとき
・ ブレーキペダルを踏んだとき
・ エンジンスイッチを押したとき

降車オートロック機能は非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を非作動にする（→P.96）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を非作動にする（→P.96）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.111）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
（→P.106）

■電子キーが正常に働かないときは

●ドア・トランクの施錠・解錠：→P.432

●エンジンの始動：→P.433

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→P.96, 105, 432）

●エンジンの始動・エンジンスイッチの

モード切りかえ：→P.433

●エンジンの停止：→P.166

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.109）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■助手席を前倒しにしたとき

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

調整するには

■ シート調整スイッチでの調整

A 前後位置調整

B リクライニング調整

C ヘッドレストの上下調整★
(→P.133)

D クッション前端の上下調整

E シート全体の上下調整

F 腰部調整（ランバーサポート）

G クッションの長さ調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ センターディスプレイでの調整

1 シートスイッチを押す

2 リモートタッチのタッチパッドで“運転席シート調整”または“助手席シート調整”を選択する

3 調整したい部位を選択する

A ヘッドレストの調整（→P.133）

B 肩部調整（ショルダーサポート）★

C 腰部調整（ランバーサポート）

D 骨盤部調整（ペルビックサポート）

E 背もたれの側面調整（バックサイドサポート）★

F クッションの側面調整（クッションサイドサポート）★

G 臀部調整（ヒップサポート）★

4 表示された調整ボタンを選択して調整する

調整ボタンを押しているあいだ、シートが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートの調整について

天井やインストルメントパネル、後席との干渉を回避するために、シートの作動を制限することや、調整している部位以外が作動することがあります。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチ OFF 後、一定時間が経過すると、次の部位が中立位置に戻ります。

●肩部（ショルダーサポート）★

●腰部（ランバーサポート）

●骨盤部（ペルビックサポート）

●背もたれの側面（バックサイドサポート）★

●クッションの側面（クッションサイドサポート）★

●臀部（ヒップサポート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■後席ディスプレイ★の角度自動調整機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートを調整すると、リヤ席から画面が見やすい角度にディスプレイが自動で調整されます。

■プリクラッシュシートバック

→P.202

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

運転席から助手席を操作するには

■ 運転席側シート調整スイッチでの操作（助手席操作モード）

助手席操作モードにすることで、運転席のシート調整スイッチで助手席を操作できます。

1 助手席操作モードボタンを押す

インジケーター A が点灯します。

2 運転席のシート調整スイッチを押して、助手席を操作する

助手席操作モードボタンをもう一度押すと、助手席操作モードが解除されます。

運転席のシート調整スイッチを約 30 秒間操作しなかった場合は、助手席操作モードが自動的に解除されます。

■ センターディスプレイでの操作（可倒式ヘッドレスト装着車）

1 シートスイッチを押す

2 操作ボタンを選択する

“助手席”の“フルフロント”：助手席を前方に移動し、背もたれとヘッドレストを前倒しにする

“助手席”の“リターン”：助手席を後方に移動し、背もたれとヘッドレストを中立位置に戻す

リヤ席が中立位置でないときは、リヤ席が中立位置まで作動したあと、助手席が中立位置に戻ります。

リヤシートエンターテインメントシステム装着車：助手席が中立位置に戻ったあと再度を選択すると、助手席がさらに後方に移動します。

途中で停止するときは、助手席操作ボタンのまたはを選択するか、またはシートスイッチを押します。

知識

■ 助手席操作モードでの可倒式ヘッドレスト★の操作について

- 助手席操作モードのとき、シートリクライニングスイッチの操作にあわせて助手席のヘッドレストが次のように作動します。
  - ・リクライニングを中立位置より前方に調整すると、スイッチを離したあと、ヘッドレストが下降し、前倒しになります。
  - ・リクライニングを中立位置より後方に調整すると、スイッチを離したあと、ヘッドレストが中立位置まで戻ります。
- 次のときは、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは前倒しになりません。
  - ・エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき
  - ・助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を

検知しているとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFF にするまで、検知状態が継続します。

・ リヤシートエンターテインメントシステム非装着車：助手席のシートが後方にあるとき
・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動
・ シート全体の位置がいちばん下にないとき
・ クッション前端がいちばん下にないとき
・ クッションの長さを伸ばしているとき★

●次のときは、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは中立位置に戻りません。

・ エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき
・ 助手席の前後位置が中立位置より前のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■助手席側シート調整スイッチでの可倒式ヘッドレスト★の操作について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

助手席のヘッドレストが前倒しのとき、助手席側のドアを開けて、助手席側シート調整スイッチで助手席位置を後方に調整、またはリクライニングを後方に倒すと、スイッチを離したあと、ヘッドレストが中立位置まで戻ります。

ヘッドレスト作動中に次のいずれかの操作をすることで、ヘッドレストの作動を停止することができます。

●助手席側シート調整スイッチのいずれかを操作する

前後調整スイッチの後方側、またはリクライニングスイッチの後方側を操作した場合は、スイッチ操作中のみヘッドレストの作動が停止し、スイッチを離すと再びヘッドレストが作動します。

●ドライビングポジションメモリーの SET ボタンを押す

●ドライビングポジションメモリーの1～3 のボタンを押す

●シートスイッチを押す

■センターディスプレイでの助手席操作について（可倒式ヘッドレスト装着車）

次のときは、助手席を操作できません。

●エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき

●助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFF にするまで、検知状態が継続します。

●助手席シートベルトがバックルに留められているとき

●助手席ドアが開いているときの前方への作動

■助手席を前倒しにしたとき

助手席のリクライニングを後方に倒すことで、リヤ席からの車両前方視界をより広くすることができます。

リヤ席から助手席を操作するには（パワーリヤシート非装着車）

1 スイッチを押しているあいだ、助手席を前方に移動し、背もたれを前倒しにする

2 スイッチを押しているあいだ、助手席を後方に移動し、背もたれを中立位置に戻す

リヤ席から助手席を操作するには（パワーリヤシート装着車）

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” をタッチする（→P.322）

2 “ 助手席 ” をタッチする

3 操作ボタンをタッチする

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

A 助手席を前方に移動し、背もたれを前倒しにする

可倒式ヘッドレスト装着車はヘッドレストも前倒しになります。

途中で停止するときは、“ 停止 ” をタッチします。

B 助手席を後方に移動し、背もたれを中立位置に戻す

リヤ席が中立位置でないときは、リヤ席が中立位置まで作動したあと、助手席が中立位置に戻ります。

可倒式ヘッドレスト装着車はヘッドレストも中立位置に戻ります。

リヤシートエンターテインメントシステム装着車：助手席が中立位置に戻ったあと再度 B を選択すると、助手席がさらに後方に移動します。

途中で停止するときは、“ 停止 ” をタッチします。

C 助手席の前後位置を調整する

ボタンをタッチしているあいだ、助手席が動きます。

可倒式ヘッドレスト非装着車はリクライニングの調整もできます。

D 助手席のリクライニングを調整する ※

ボタンをタッチしているあいだ、背もたれが動きます。

※ 可倒式ヘッドレスト装着車のみ

知識

■ リヤ席からの助手席操作について

● 次のときは、助手席を操作できません。
- エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき ※
- リヤ席シートベルトがバックルに留められておらず、リヤ席が重量を検知していないとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFF にするまで、検知状態が継続します。

・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動

※ 可倒式ヘッドレスト装着車のみ、エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のときでも、助手席の前後位置やリクライニングを調整することができます。

● 作動中にリヤアームレストを格納すると、作動が停止します。

■ **作動を途中で止めたいときは**

リヤマルチオペレーションパネルの

ボタンを長押し、または 3 回連続で押すと作動を停止させることができます。

■ **助手席を前倒しにしたとき**

→P.118

フロントシートリフレッシュシステム★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアーの作動による押圧機能を備えたリフレッシュシステムが装備されています。コースと作動の強さをお好みにより調整することができます。

1 シートスイッチを押す

2 リモートタッチのタッチパッドで“運転席リフレッシュ” または“助手席リフレッシュ” を選択する

3 コースを選択する

● 求心

シートクッションの前部から背もたれの上部へ作動します。

● 遠心

背もたれの上部からシートクッションの前部へ作動します。

● 上半身

背もたれの下部から上部へ作動します。

● 下半身

シートクッションの前部から後部へ作動します。

● 腰

背もたれ腰部の下部から上部へ作動します。

4 作動の強さを調整し、決定する

5 段階で調整することができます。

“停止” を選択すると、作動が停止します。

シートに乗員がいないときは、リフレッシュシステムを使用しないでください。

知識

■フロントシートリフレッシュシステムについて

●作動条件
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・車室内の温度が高温でないとき
・助手席：シートが乗員の重量を検知しているとき、またはシートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

●自動停止機能
・作動開始から約 15 分で自動的に停止します。
・パワーイージーアクセスシステムが作動したときは、作動を終了します。

警告

■走行中の留意事項

走行中は運転席リフレッシュシステムの調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントシートリフレッシュシステムのご使用について

●妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

●お子さまは使用しないでください。

●食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

●使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

パワーリヤシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン装着車：前後調整やオットマンの操作をするときは、足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

●リヤシートエンターテインメントシステム装着車：シートをエンターテインモードにするときは、ディスプレイに手を近付けないでください。
指や手が挟まれて、けがをするおそれがあります。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■オットマン★の使用について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●走行中は角度調整をしないでください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

注意

■オットマン★の故障を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■後席ディスプレイ★の故障を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後席ディスプレイを手で動かさないでください。ディスプレイが損傷する恐れがあります。

調整するには

■ オート作動での操作

シートをあらかじめ登録されたモードにすることができます。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” をタッチする（→P.322）

2 “左席” または “右席” をタッチする

3 モードボタンをタッチする

作動条件を満たしていないときは、モードボタンがグレー表示になります。

：中立位置にする（ビジネスモード）

：オットマン付きシートを背もたれが少し倒れる位置にする（エンターテインモード）★

リヤシートエンターテインメントシステ

ム非装着車：助手席が前方に移動します。

リヤシートエンターテインメントシステム装着車：後席ディスプレイが見やすい位置まで、後席ディスプレイと助手席が移動します。

：オットマン付きシートを背もたれが大きく倒れる位置にする（リラックスモード）★

助手席を前方に移動し、背もたれとヘッドレストを前倒しにします。

途中で停止するときは、“停止”をタッチします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マニュアル作動での操作

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で“シート”をタッチする（→P.322）

2 “左席”または“右席”をタッチする

3 ボタンをタッチして調整する

A 調整したい部位の選択

B 位置の調整

ボタンをタッチしているあいだ、シートが作動します。

知識

■ シートの調整について

● フロントシートとの距離が近い場合、リヤシートの作動が制限されることがあります。

● 作動中にリヤアームレストを格納すると、作動が停止します。

■ ビジネスモードの作動条件

リヤ席シートベルトがバックルに留められておらず、リヤ席が重量を検知していないときは、ビジネスモードを選択できません。

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

■ エンターテインモード・リラックスモードの作動条件（オットマン装着車）

次のときは、エンターテインモード・リラックスモードを選択できません。

● エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき

● リヤ席シートベルトがバックルに留められておらず、リヤ席が重量を検知していないとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

● 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

● 助手席シートベルトがバックルに留められているとき

● 助手席ドアが開いているとき

■助手席を前倒しにしたとき

→P.118

■後席ディスプレイ★の角度自動調整機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートを調整すると、リヤ席から画面が見やすい角度に後席ディスプレイが自動で調整されます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチ OFF 後、一定時間が経過すると、次の部位が中立位置に戻ります。

●肩部（ショルダーサポート）

●腰部（ランバー／ペルビックサポート）

■作動を途中で止めたいときは

リヤマルチオペレーションパネルの

ボタンを長押し、または 3 回連続で押すと作動を停止させることができます。

■プリクラッシュシートバック

→P.202

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

フロント席からリヤ席を戻すには

1 シートスイッチを押す

2 “後席” の “リターン” を選択する

リヤ席が中立位置に戻ります。

知識

■フロント席からのリヤ席操作について

次のときは、リヤ席を操作できません。

●リヤアームレストが格納状態で、リヤ席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

●リヤアームレストが格納状態で、リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

警告

■フロント席からリヤ席を戻すとき

リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

リヤシートリラクゼーションシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアーの作動による押圧機能と、専用ヒータによる温感機能を備えたリラクゼーションシステムが装備されています。リラクゼーションシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

リラクゼーションシステム操作画面を表示するには、リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で“リラクゼーション”をタッチします。（→P.322）

A 操作するシートの選択

B コースの選択

コースをタッチすると作動が開始します。

C 作動の強さ調整

5 段階で調整することができます。

D 温感機能の ON ／ OFF

E 作動の停止

シートに乗員がいないときは、リラクゼーションシステムを使用しないでください。

知識

■リヤシートリラクゼーションシステムについて

●作動条件

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・車室内の温度が高温でないとき
・リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

●自動停止機能

・作動開始から約 15 分で自動的に停止します。
・作動している側のリヤ席ドアを開けると、作動を終了します。

警告

■リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

●妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

●お子さまは使用しないでください。

●食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

●使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

自動シート作動（ドア＆シフト）

次の機能によって、リヤ席が自動で作動します。

■ ドア連動シートリターン機能

リヤ席ドアを開けると自動的にリヤ席が中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

降車時、オットマン付きシート★は中立位置より背もたれがさらに起きた位置になります。降車後にドアを閉めると中立位置に戻ります。

ただし、降車時にリヤアームレストが格納されている場合は、リヤ席は作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ シフト連動リクライニング機能

シフトポジションを P から P 以外へ切りかえると、後方の視界を確保するため、自動的にリヤ席が作動します。

ただし、次のときリヤ席は作動しません。

- リヤ席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

- リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき
- リヤ席ドアが開いているとき
- アームレストが格納されているとき

また、フロント席の位置が後方にあるときは、リヤ席の作動が制限されたり、作動しない場合があります。

■ 自動シート作動（ドア＆シフト）の設定変更

リヤマルチオペレーションパネルを使って設定を変更することができます。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” をタッチする（→P.322）

2 “ 左席 ” または “ 右席 ” をタッチする

3 をタッチする

4 ボタンをタッチして設定を変更する

A 右後席の自動シート作動

B 左後席の自動シート作動

C ドア連動シートリターン機能作動時の左後席シート起こし量 ※

※ オットマン付きシート装着車のみ

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でフロントシート・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者・助手席乗員が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

▶ 運転席

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

・ シフトポジションをPにする
・ エンジンスイッチをOFFにする
・ シートベルトをはずす

助手席操作モード中は作動しません。（→P.117）

エンジンスイッチがOFFで、クッションの側面（クッションサイドサポート）★が中立位置にあるときに運転席ドアを開けると、クッションの側面が開きます。

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

・ エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにする
・ シートベルトを着用する

▶ 助手席

停車中に次のすべての操作を行ったとき、腰部位置（ランバーサポート）や骨盤部位置（ペルビックサポート）、肩部位置（ショルダーサポート）★、背もたれの側面（バックサイドサポート）★、臀部位置（ヒップサポート）★が調整前の状態にもどり、クッションの側面（クッションサイドサポート）★が開きます。

・ シートベルトをはずす
・ 助手席ドアを開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

●降車時に、シートの位置が最後方または最上方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

●パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。

●降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■クッションの側面（クッションサイドサポート）★の作動について

クッションの側面が開いた状態でドアを閉めると、中立位置まで戻ります。

クッションの側面が中立位置まで作動している途中でシートを操作した場合、クッションの側面の作動が一時停止します。一定時間経過後に、再び中立位置まで作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

ドライビングポジションを登録するには

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 シフトポジションが P にあることを確認する

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

助手席操作モード中は登録できません。（→P.117）

助手席側を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のボタンで手順 **4** の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2 シフトポジションが P にあることを確認する
3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

助手席操作モード中は呼び出しできません。（→P.117）

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す
●1 ～ 3 のボタンを押す
●助手席操作モードボタンを押す
●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ポジションの呼び出し作動について

呼び出し作動中にシートがリヤ席に近づくと、シートの作動が停止し、登録したポジションまで作動しないことがあります。

リヤ席に乗員がいると判定されているときは、リヤ席との距離を大きめに確保して停止します。

■助手席ポジションの呼び出し作動について（オットマン装着車）

リヤ席のオットマンを使用しているときは、助手席ポジションの呼び出しができません。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席側：
運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側：
助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

電子キー（カードキーを含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションを

あらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2 シフトポジションが P にあることを確認する
3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピー ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ **解除方法**

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2 シフトポジションが P にあることを確認する
3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ **呼び出し方法**

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シート・ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

● 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

● 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼

び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

リヤシートポジションメモリー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

ポジションを登録するには

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” をタッチする（→P.322）
3 “ 左席 ” または “ 右席 ” をタッチする
4 リヤ席を好みの位置に調整し、“ 登録 ” をタッチする
5 “1” または “2” をタッチする

すでに登録されている場合は、上書きされます。

知識

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

ポジションを呼び出すには

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” をタッチする（→P.322）
3 “ 左席 ” または “ 右席 ” をタッチする
4 “1” または “2” をタッチする

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

途中で停止するときは、“ 停止 ” をタッチします。

作動中にシートを調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。

知識

■ **作動条件**

リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

■ **ポジション呼び出し作動について**

リヤ席乗員のスペースが保たれていない場合、シートの作動が停止し、登録したポジションまで作動しないことがあります。

■ **オットマン★のポジション呼び出し作動について**

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オットマンは、上方向・伸びる方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下または縮んだ位置に登録されている場合のみ作動します。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

パワーリヤシート装着車：リヤ中央席に装備されているヘッドレストはシート一体式のため、調整できません。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下前後調整するには（電動式ヘッドレスト）

■ フロント席

▶ センターディスプレイでの調整

1 シートスイッチを押す

2 リモートタッチのタッチパッドで“運転席シート調整”または“助手席シート調整”を選択する

3 A を選択し、調整ボタン B ～ E で調整する

B 上げる

C 後方に移動

D 下げる

E 前方に移動

調整ボタンを押しているあいだ、ヘッドレストが作動します。

▶ シート調整スイッチでの調整★

1 上げる

2 下げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **リヤ席**

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” をタッチする（→P.322）

2 “左席” または “右席” をタッチする

3 A をタッチし、調整ボタン B ～ E で調整する

B 上げる

C 後方に移動

D 下げる

E 前方に移動

調整ボタンをタッチしているあいだ、ヘッドレストが作動します。

上下調整するには（手動式ヘッドレスト）

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ **フロント席について（電動式ヘッドレスト）**

フロント席のヘッドレストが天井に近い場合は、ヘッドレストの上方への作動が制限されます。

■ **ヘッドレストの高さについて**

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ **リヤ席について（手動式ヘッドレスト）**

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

サイドサポートを調整するには★

ヘッドレストの側面を操作する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを取りはずすには（手動式ヘッドレスト）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

知識

■ヘッドレストの取りはずしについて（電動式ヘッドレスト）

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

ヘッドレストを取り付けるには（手動式ヘッドレスト）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.127）

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.127）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります

デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物、リヤサンシェードなどで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.138)

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

システムの構成部品

A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.139）などが表示されます。

C 選択スイッチ

ディスプレイの調整を行います。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整アイコンの選択を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

エンジンスイッチをイグニッション ON モードから OFF またはアクセサリーモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のランプのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェードを閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のランプの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こす恐れがあります。

■システムに異常が発生したら

デジタルミラーモードの使用中に図で示すシンボルが表示された場合は、システムに異常があるおそれがあります。しばらくすると表示は消えますが、レバーを操作して鏡面ミラーモードに切りかえ、レクサス販売店で点検を受けてください。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方

向に調整する

■ ディスプレイの調整（デジタルインナーミラーモード）

すべての調整アイコンを変更できます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。

2 メニュースイッチを押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる

3 選択スイッチの◥または◤を押して設定を変更する

約 5 秒以上スイッチの操作をしなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☼	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↶	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。
☼Ⓐ	自動防眩機能の ON／OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON／OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

▶ デジタルミラーモード使用時

→P.139

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。

2 メニュースイッチを押して☼にカーソルを合わせる

設定画面が表示されます。

3 選択スイッチの◄または►を押して自動防眩機能のON/OFFを切りかえる

約5秒以上スイッチの操作をしなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。
走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■火災を防ぐために

異臭や煙等が出た場合はただちに使用を中止し、レクサス販売店で点検を受けてください。そのままご使用になると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。
あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

ワイパースイッチを操作することで、カメラレンズを洗浄することもできます。(→P.189)

知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。

注意

■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

● シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品でミラー本体を拭かないでください。変色や劣化のほか、ミラー表面を傷つけるおそれがあります。

● ミラー本体にライターなどの火気を近づけないでください。破損や車両火災の原因となります。

● ミラー本体の取り外し、分解、改造はしないでください。

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

● デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

注意

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになった時は、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい。	ミラー表面が汚れている。	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった。	鏡面ミラーモードに切りかえてください。（ムーンルーフからの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください。）
	・夜間など暗いところで使用した。 ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。 ・カメラ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低い。 ・雨天時など湿度が高い。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。 ・排気ガスが映り込んでいる。	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。）

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい。	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	●ウォッシャーで汚れを洗い流してください。（→P.189） ●鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ●大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている。	トランクが完全に閉まっていない。	トランクを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた。	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった。	システムに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した。		

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に が表示された。	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い。 （徐々にディスプレイ上が暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます。）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます。） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない。	切りかえレバーに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 （メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます。）

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

A 右

B 左

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

A 上

B 左

C 下

D 右

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.328)

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.139)

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.127)

■リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときは、シフトポジションを R にした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、マニュアル作動で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（→P.451）

警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■運転席のパワーウインドウスイッチでリヤドアガラスを開くとき（リヤドアサンシェード装着車）

リヤドアサンシェード展開時または展開作動中に、リヤドアガラスの操作スイッチを押すと、リヤドアサンシェードが格納作動します。リヤドアガラスを開くには、もう一度操作スイッチを押してください。

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウ

スイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.433）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.96）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.58）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.150）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには

1 ムーンルーフを開く※

チルトアップしてから開きます。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→P.433）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→P.96）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.58）

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “DOWN” 側を押し続ける※

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.451)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 156

荷物を積むときの注意..... 163

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 164

オートマチックトランスミッション..... 168

方向指示レバー..... 174

パーキングブレーキ..... 175

ブレーキホールド..... 178

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 180

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 183

マルチウェザーライト..... 187

リヤフォグランプ..... 188

ワイパー＆ウォッシャー..... 189

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 193

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + A 195

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 201

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 214

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 217

RSA（ロードサインアシスト）..... 230

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 233

先行車発進告知機能..... 244

ドライバー異常時対応システム.....247

ITS Connect.....252

Stop & Start システム.....259

BSM（ブラインドスポットモニター）.....267

PKSA（パーキングサポートアラート）.....272

クリアランスソナー.....273

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....279

RCD（リヤカメラディテクション）.....283

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....286

パーキングサポートブレーキ（静止物）.....291

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....293

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....295

ドライブモードセレクトスイッチ.....297

電子制御エアサスペンション...299

運転を補助する装置.....302

プラスサポート（販売店装着オプション）.....309

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 313

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.164

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P.168）

シフトポジション表示灯が D であることを確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.175）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.175）

3 シフトポジションを P にする（→P.169）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.175）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.175）

知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてく

ださい。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。車両停止時は Stop & Start システムが働きエンジンが停止するため、アイドル運転を行うときは Stop & Start キャンセルスイッチを押してシステムを非作動にしてください。（→P.266）

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外等の一般走行	不要
高速走行（約 100km/h 定速）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場などの 100km/h 以上の連続走行	約 1 分

■環境に配慮した運転

→P.87

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

警告

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.400 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.168)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

●走行中にシフトポジションを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ブレーキパッドの摩耗について

次のいずれかのときは、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

●ブレーキパッドの厚さを4輪とも目視で点検し、どれか 1 つでも使用限度をこえている場合（使用限度については P.449 を参照してください）

●マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合（右輪のみ検知）

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにし、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをＰにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

注意

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために

●高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→P.157)

●排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。

●排気管の改造は絶対にしないでください。

●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

●定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.419, 428 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（AWD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切り替えられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ 速度抑制中 ” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

● TRC の作動を停止（→P.304）すると、急発進の抑制制御も停止 ※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.304）

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

● タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

● 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.451）

・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・センターディスプレイの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.175）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

3 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■エンジンスイッチ照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードから OFF にしたときは、エンジンスイッチ照明が遅く点滅します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が速く点滅します。
- エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。

■エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.57）
  レクサス販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.434 を参照

してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.92

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.111

■ご留意いただきたいこと

→P.111

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください” が表示されます。シフトポジションが P にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。

●短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■電子キーの電池交換

→P.392

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.432 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

注意

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.175）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.169）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.170

警告

■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.400）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
メーターに “イグニッション ON” が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、エンジンスイッチを操作して OFF にしようとしてもアクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからエンジンスイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、メーターの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.173)

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■オートマチックトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “AT オイル高温 取扱書を確認してください” が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D ポジションでのレンジ選択走行中に 9・8・7・6・5 または 4 にレンジダウンしたとき（→P.172）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.297）

■急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

→P.162

■AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているとき自動的に作動します。（シフトポジションを M にすると機能が解除されます）

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■バッテリーを脱着したとき

→P.438

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.417）

●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について

A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（ ● ）にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D・M 以外のときは、シフトポジション表示灯の M 方向への矢印と M 表示がグレー表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■エンジンスイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●エンジンスイッチが OFF またはアクセサリーモードのときはシフトポジションの切りかえはできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは、N のみに切りかえが可能です。

●エンジンがかかっているときは、P から、D・N・R を選択できます。

■P から他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを M に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、M を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から M を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させエンジンスイッチを押したとき（シフトポジ

ションがPに切りかわったあと、エンジンスイッチがOFFになります）※

●シフトポジションがP以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
・エンジンスイッチがイグニッションONモード
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがPに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがP以外の状態で、バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にエンジンスイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でエンジンスイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

バッテリーあがりの可能性があります。バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.435を参照してください。

警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

注意

■シフトポジションの切りかえ操作について

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.297

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適した制御に切りかえることができます。

スノーモードスイッチを手前側へ回す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときはスノーモードスイッチをもう一度手前側へ回します。

A F SPORT 以外

B F SPORT

知識

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のレンジより 1 つ上のレンジに切りかえます。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

A F SPORT 以外

B F SPORT

1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ～ D10	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジが D1 レンジに固定されます。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトポジションを D 以外にしたとき

●パドルシフトスイッチの“+”側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを M にすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

A F SPORT 以外

B F SPORT

1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

● 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

● エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチをアクセサリーモードにするときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチをアクセサリーモードにすることができます。

1 エンジンが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にエンジンスイッチを押す

シフトポジションが N でアクセサリーモードになります。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメー

ションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P に切りかえます
- エンジンが停止しているときに、N ポジションを保持したままアクセサリーモードにする操作を行うと、シフトポジションが N でアクセサリーモードになる場合がありますが、必ずエンジンが始動している状態で行ってください。

※ この状態を維持したい場合は、エンジンスイッチを操作しないでください。エンジンスイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります。

注意

■N ポジションを保持したままアクセサリーモードにするときは

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチをアクセサリーモードにするときは、必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切りかわるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトポジションをP からP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションをP 以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよびP ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける

知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：シフトポジションを P から P 以外 にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトポジションが D､M または R のとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあり

ます。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.156

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.409

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.313

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

シフトポジションが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。

知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.175）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないとき

はシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.414

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO ※1	LED デイタイムランニングランプ（→P.181）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。

※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.181）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■LED デイタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの

光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッションONモードにするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから ≣DO≡/O または≣Dの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはOFFの状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。エンジンスイッチをイグニッションONモードにすると、節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約20分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはトランクを開閉したとき

■おもてなし照明

ランプスイッチがAUTOの位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.451)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには

1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にハンドルまたは方向指示レバーを操作すると、交差点での視認性確保のため、車両進行方向側のコーナリングランプが点灯します。

ただし、車速が約 35km/h より高い場合は、コーナリングランプは点灯しません。

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にシフトポジションを R にすると、駐車時の視認性向上のため、両側のコーナリングランプが点灯します。

知識

■コーナリングランプ制御について

コーナリングランプは、点灯したまま約 30 分経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

システムの制御

● 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

● カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

● 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

● 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

アダプティブハイビームシステムを使うには

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

2 ランプスイッチを⇒または

AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、AHS 表示灯が点灯します。

知識

■ **システムの作動条件**

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 15km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

●車速が約 3 ～ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

■ **カメラセンサーの検知について**

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。

■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。

■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときのみに使用します。

マルチウェザーライト

マルチウェザーライトはコーナリングランプを点灯させることにより、雨や霧などの悪天候下での視界を確保するシステムです。

マルチウェザーライトの ON／OFF 切りかえ

1 ランプスイッチを≡Dまたは

AUTOの位置にする

2 リングを#Dまたは(D≠の位置にする

手を離すと ○ の位置までもどります。

マルチウェザーライトが ON になり、メーター内のマルチウェザーライト表示灯が点灯します。

再度操作すると OFF になります。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすとマルチウェザーライトが作動し、両側のコーナリングランプが点灯します。

●ヘッドランプが点灯しているとき

●車速が 45km/h 未満のとき

車速が 45km/h 以上になると一時的に消灯しますが、35km/h 未満になると再点灯します。

■リヤフォグランプ★の点灯

マルチウェザーライトが ON のときは、リヤフォグランプも点灯することがあります。(→P.188)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

リヤフォグランプ★点灯時のマルチウェザーライトの作動・非作動を変更できます。(→P.451)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下で後続車両に自車の存在を知らせることができます。

操作のしかた

1 ランプスイッチを≡Dまたは

AUTOの位置にする

2 リングを◐≡の位置にする

手を離すと ○ の位置までもどります。

リヤフォグランプが点灯し、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。

再度操作すると消灯します。

知識

■点灯条件

●ヘッドランプが点灯しているとリヤフォグランプも点灯します。

●ヘッドランプが消灯しても尾灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

■リヤフォグランプの使用

必要なときのみ使用してください。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

■マルチウェザーライトの作動

リヤフォグランプが点灯時は、マルチウェザーライトも作動することがあります。（→P.187）

■カスタマイズ機能

リヤフォグランプ点灯時のマルチウェザーライトの作動・非作動を変更できます。（→P.451）

ワイパー＆ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

1 ○ 停止

2 AUTO雨滴感知オート作動（AUTO）

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動（LO）

4 ▼▼ 高速作動（HI）

5 △ 一時作動（MIST）

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整することができます。

6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）

8 ウォッシャー液を出す（フロントウインドウガラス）

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさ

らに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

9 ウォッシャー液を出す（リヤカメラ）

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動して、リヤカメラとデジタルインナーミラーのカメラを洗浄します。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **車速による作動への影響**

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）への影響があります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ **雨滴感知センサー**

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外を選択してワイパーを使用してください。

■ **ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ **ドア開連動ワイパー停止機能**

AUTO 選択中、シフトポジションが P の状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ **走行中にエンジンを緊急停止したときは**

エンジンを停止したときにワイパーが作

動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

■ ワイパー連動機能

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターが作動します。
ミラーヒーターは、ワイパー停止後約 15 分で自動的に OFF になります。
ミラーヒーターについて：→P.328

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

警告

■ AUTO選択時のワイパー作動について

AUTOを選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

エンジンスイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。

■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部Aを持ってガラス面から引き上げる

知識

■ ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でエンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。エンジンスイッチが OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

注意

■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。

- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

注意

●塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける

2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

知識

■給油扉が開かないとき

→P.431

給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System + A

Lexus Safety System + A は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ **PCS（プリクラッシュセーフティ）**

→P.201

■ **FCTA（フロントクロストラフィックアラート）**

→P.214

■ **LTA（レーントレーシングアシスト）**

→P.217

■ **AHS（アダプティブハイビームシステム）**

→P.183

■ **RSA（ロードサインアシスト）**

→P.230

■ **レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）**

→P.233

■ **先行車発進告知機能**

→P.244

■ **ドライバー異常時対応システム**

→P.247

警告

■ **Lexus Safety System + A について**

Lexus Safety System + A は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

センサー

フロントグリルとフロントバンパー、リヤバンパー、フロントウインドウガラスにある 4 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

▶ フロント

A 前方レーダー

B 前側方レーダー

C 前方カメラ

▶ リヤ

後側方レーダー（→P.267）

警告

■前方レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダーの位置や向きが少しでもずれると、作動対象を正しく検知できなくなったり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前側方レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。レーダー周辺のフロントバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.418）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、しばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●フロントバンパーのレーダー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●レーダー周辺のフロントバンパーへの強い衝撃を避ける

レーダーの位置や向きが少しでもずれると、作動対象を正しく検知できなくなったり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・レーダーやレーダー周辺に強い衝撃を受けた

・レーダー周辺のフロントバンパーなどに傷や凹みがある、フロントバンパーの一部が外れている

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー周辺のフロントバンパーを改造しない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

●フロントバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ガラスコーティング剤によっては前方カメラの検知に影響を及ぼす場合があります。ガラスコーティング剤を使用の際はレクサス販売店にご相談ください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1 cm まで

B 約 36 cm（前方カメラ中心から左右約 18 cm）

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.328）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.328）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ　レーダー向き調整中　取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境がセンサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき

・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ　現在使用できません　取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の車両や歩行者、自転車運転者を前方レーダーや前方カメラで検出、もしくは側方から接近する車両を前側方レーダーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、進路上の車両や歩行者、自転者運転者、ガードレールに対しては、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。**（→P.205）**

機能一覧

■ 歩行者注意喚起

自車前方で静止、もしくは移動している歩行者と衝突の可能性があるとシステムが判断した時に、ヘッドアップディスプレイで運転者へ注意喚起します。

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをか

けることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。

■ **交差点右左折支援**

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）

■ **アクティブ操舵回避支援**

ガードレールのような連続した構造物や自車線内の歩行者と衝突する可能性が高く、ブレーキ制御だけでは衝突の可能性が高い、かつ、操舵制御によって衝突を回避できる可能性があるとシステムが判断した場合、警報とブレーキ制御に加え、自動で操舵制御を行うことで、衝突回避あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

■ **アクティブアシスト（フロントシートベルト）**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。

■ **プリクラッシュシートバック（助手席、パワーリヤシート★）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、助手席、パワーリヤシートの背もたれを起こします。

シートの背もたれを倒しているときに作動します。

スイッチ操作によるシート調整中には作動しません。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.302）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

■ ステアリングコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

衝突の可能性が高いとシステムが判断し、かつ運転者がハンドル操作をしたとき、LDH（→P.303）によって前・後輪の切れ角とハンドルの重さを制御することで、ハンドル操作に対する応答性の向上に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：（→P.208）

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：（→P.211）

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

警告

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■アクティブ操舵回避支援について

- アクティブ操舵回避支援が作動した時は、ハンドルが自動で回ります。
- アクティブ操舵回避支援は、衝突が回避されたとシステムが判断した段階で制御を終了します。必要に応じて運転者自らハンドル操作をしてください。
- 以下の場合にはシステムが運転者の回避操作と判断し、アクティブ操舵回避支援が作動しない、または作動中に解除されます。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、アクティブ操舵回避支援が作動しない場合があります。

・アクティブ操舵回避支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、アクティブ操舵回避支援の作動が解除されます。

・アクティブ操舵回避支援作動中に、ハンドルを保持したり、システムと逆方向にハンドル操作した場合には、アクティブ操舵回避支援の作動が解除されます。

・ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、アクティブ操舵回避支援の作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■シートベルトについて

アクティブアシストの作動により、シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合、すみやかに安全な場所に停車してシートベルトを外し、再度装着してください。

また、シートベルトをゆるませることができる場合は、少し巻き取らせることでロックを解除することが出来ます。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリル、リヤバンパーに強い衝撃が加わったとき

警告

- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両にセンサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

プリクラッシュセーフティが OFF の場合、歩行者注意喚起も OFF になります。

■ 歩行者注意喚起の ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、歩行者注意喚起の ON/OFF を変更することができます。

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

■ 歩行者注意喚起の注意喚起タイミングを変更する

衝突警報の作動タイミングを変更すると、歩行者注意喚起の注意喚起タイミングも同様に変更されます。

知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の車両・歩行者・自転車運転者、ガードレール、もしくは側方からの接近車両と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（歩行者注意喚起・衝突警報のみ作動可能状態になります）
- 回避するための十分なスペースがない、または、回避先に物があるとき
- 回避方向の前方、または、後方より移動物が接近しているとき

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

- 歩行者注意喚起

作動対象	自車速度
歩行者	約 30 ～ 65 km/h

- 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 10 ～ 180 km/h	約 20 ～ 180 km/h
自転車運転者・歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h

作動対象	自車速度	接近車両の速度
側方からの接近車両	約 10 ～ 60 km/h	約 15 ～ 60 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

- プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h

作動対象	自車速度	接近車両の速度
側方からの接近車両	約 30 ～ 60 km/h	約 15 ～ 60 km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 10 ～ 180 km/h	約 20 ～ 180 km/h
自転車運転者・歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

●アクティブ操舵回避支援

作動対象	自車速度
歩行者	約 40 ～ 65 km/h
ガードレール	約 60 ～ 80 km/h

アクティブ操舵回避支援作動中に次の操作をすると、アクティブ操舵回避支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15 km/h 以下	約 15 km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25 km/h	約 30 ～ 55 km/h	約 40 ～ 80 km/h
歩行者	約 10 ～ 25 km/h	—	約 10 ～ 25 km/h

●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25 km/h	約 30 ～ 45 km/h	約 45 ～ 70 km/h
歩行者	約 10 ～ 25 km/h	—	約 10 ～ 25 km/h

■車両・歩行者・自転車運転者の検出について

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、車両・歩行者・自転車運転者の動き・姿勢・角度などによっては、それらを検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.211）
図は検出する車両・歩行者・自転車運転者のイメージです。

■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・車両・歩行者・自転車運転者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して車両・歩行者・自転車運転者を追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に車両・歩行者・自転車運転者が存在するとき

・車両・歩行者・自転車運転者などに急接近したとき
・道路脇の車両・歩行者・自転車運転者や物体（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・自転車運転者や物体などが存在するとき

・自車の前方に車両・歩行者・自転車運転者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している車両・歩行者・自転車運転者などを追い抜くとき

・右左折待ちの車両・歩行者・自転車運転者などとすれ違うとき

・車両・歩行者・自転車運転者などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・くぼみ・突起物があるとき
・横断する歩行者・自転車が車両のすぐそばに近付いたとき

・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・高架下・橋桁・道路標識など）がある場所を走行するとき

・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
・狭い路で対向車とすれ違うとき
・中央分離帯にある壁やポールに接近して走行するとき
・急カーブで対向車とすれ違うとき
・右左折する対向車とすれ違うとき

・側方から接近する車両の前を通り過ぎるとき

・側方から車両が接近中に右左折するとき

・路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
・S 字カーブで対向車とすれ違うとき
・道路脇やカーブ入り口の、歩行者と形状がよく似た構造物（電柱・木・ポールなど）に近づいたとき

・道路脇やカーブ入り口に停めてある自転車・二輪車に近づいたとき
・先行する自転車・二輪車に追従しているとき

●例えば次のような対象を、システムが歩行者注意喚起の対象と判断し、作動するおそれがあります。
・歩道上の歩行者
・自転車、バイク
・路面ペイント、壁面、中央分離帯、看板等

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、センサーが対象となる車両・歩行者・自転車運転者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって車両・歩行者・自転車運転者が近付いてくるとき
・自車や対象となる車両・歩行者・自転車運転者がふらついているとき
・車両・歩行者・自転車運転者が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・車両・歩行者・自転車運転者に急接近したとき
・車両・歩行者・自転車運転者が自車の中心軸からずれているとき

・車両・歩行者・自転車運転者が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に車両・歩行者・自転車運転者がいるとき
・車両・歩行者・自転車運転者の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・車両・歩行者・自転車運転者が複数重なっているとき
・車両・歩行者・自転車運転者・ガードレールが太陽光などの強い光を反射しているとき
・車両・歩行者・自転車運転者の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・車両・歩行者・自転車運転者の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・車両・歩行者・自転車運転者が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1 m 以下、または約 2 m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、車両・歩行者・自転車運転者が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・周辺に反射物が多い環境（トンネル・立体駐車場など）のとき
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・センサーの向きがずれているとき
・ヘッドランプの光軸がずれているとき
・ガードレールに対して深い角度、または、浅い角度で進入したとき
・見通しが悪い交差点で自車に向かって車両が近づいてくるとき
・自車の後方側面に車両が近づいてくるとき
・自車の側面へ浅い角度で車両が近づいてくるとき
・路面勾配が急激に変化するとき（急な上り坂、下り坂）
・夜間やトンネル内でヘッドランプ照射範囲外にいる歩行者や自転車運転者
・速度や方向を急激に変化させている歩行者や自転車運転者
・物陰から飛び出してきた歩行者や自転車運転者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者や自転車運転者
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき

・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき

●例えば次のような状況では、センサーが自車線、車両の回避スペースを検出できず、アクティブ操舵回避支援が作動しないおそれがあります。
・車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡等で、道路面に濃淡の模様があるとき
・ブレーキのみで衝突回避ができると判断されたとき
・自車の前方中央付近にいる歩行者と衝突するとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

●例えば次のようなガードレールは、前方レーダーや前方カメラが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・高さが約 60cm 以下のガードレール
・長さが短いガードレール
・特殊な形状のガードレール（ワイヤー製のガードレール、細いポールのガードレールなど）
・夜間またはトンネル内でヘッドランプ照射範囲外にあるガードレール
・色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいるガードレール
・壁とガードレールなど構造物どうしが重なるようなとき
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にあるガードレール
・草むらに隠れているガードレール
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にあるガードレール
・カーブ入り口、カーブ区間中にあるガードレール

●例えば次のような状況では、システムが注意喚起の対象と判断し、ヘッドアップディスプレイ表示が、実際の対象方向とずれて表示される場合があります。
・路面にうねり・凹凸・わだちがあり、車両姿勢が変化しているとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき
・運転者の運転姿勢（シート合わせ位置）が標準から大きくずれている場合
・ヘッドアップディスプレイの表示位置（高さ合わせ）が標準から大きくずれている場合

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.304）したときは、プリクラッシュブレーキアシス

ト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

● PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します” が表示されます。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、前側方レーダーや ITS Connect（→ P.252）の機能で交差する車両の接近を検知し、ヘッドアップディスプレイと連携して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ヘッドアップディスプレイとパノラミックビューモニター ※ の表示で知らせます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、マルチインフォメーションディスプレイとブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

● ヘッドアップディスプレイ

● マルチインフォメーションディスプレイ

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。

一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

FCTA の設定変更

■ FCTA の ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、FCTA の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

■ 注意喚起タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、注意喚起タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、FCTA を OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■FCTA 機能の作動条件

システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15 km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60 km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

●道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき

●テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき

●自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき

●自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき

●自転車や歩行者が歩道を通行しているとき

●車両や歩行者が自車から遠ざかるとき

●交差車両が減速し停止するとき

●交差車両が自車直前で右左折するとき

●歩行者が自車に接近するとき

●対向車が右左折するとき

●交差車両より先に自車が交差点を通過するとき

●信号待ち時に交差車両が接近するとき

●自車周辺に金属物等の電波を反射しやすい障害物（車両、ガードレール、壁、標識など）が存在するとき

●右左折など旋回時に交差車両が存在するとき

●前方から車両が接近し、すれちがうとき

●後方から車両が接近し、追い抜かれるとき

●自車が車両や歩行者と並走するとき

●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

例えば次のような対象を、システムがFCTAの対象と判断し、作動するおそれがあります。

●歩行者

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●交差車両の前面、側面面積が小さいとき（車高の低いスポーツカーなど）

●交差車両の前端が低い位置にあるとき（車高の低いスポーツカーなど）

●交差車両の最低地上高が極端に高いとき

●交差車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）

●駐車場などから車両が交差方向に急に進入してくるとき

- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 勾配の変化が激しい坂道を走行するとき
- きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- 自車と交差車両のあいだに障害物があるとき
- 周辺に金属物等の電波を反射しやすい障害物（駐車車両、ガードレール、壁など）が存在するとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- FCTA 機能を ON にした直後

■**PCS 警告灯が点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）の作動中は、車線維持や車線変更に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車や周辺車両を前方カメラやレーダーで認識します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■車線変更支援機能を使用してはいけない状況

●片側1車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白色の破線でないとき

●高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.223）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

警告

- 先行車追従表示中（→P.223）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→P.223）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→P.223）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

- 分岐・合流路などを走行するとき

- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

警告

- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

■ **車線維持支援機能**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。機能が解除された場合はハンドルを持ち直してください。

■ **車線変更支援機能（LCA [レーンチェンジアシスト]）**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、方向指示レバー（→P.174）を途中で保持することで、車線変更に必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

支援時は、走行レーンの前方車両とレーンチェンジ先の走行車両を考慮して加減速制御を行います。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

車線維持支援機能が作動していないときは、車線変更支援機能は作動しません。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。機能が解除された場合はハンドルを持ち直してください。

設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

車線変更支援機能を作動させるには

方向指示レバーを途中で保持すると、LCA 表示灯が白色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“ウィンカー保持で車線変更を開始します”と表示されます。

そのまま 1 秒以上保持すると、システムが作動します。

作動中は LCA 表示灯が緑色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに車線を変更する方向が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B LCA 表示灯

表示灯の点灯状態で、車線変更支援機能の作動状況をお知らせします。

白色に点灯：作動待機状態

緑色に点灯：作動中

C ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

E 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

■ 車線変更支援機能

● 車線変更支援時

車線変更支援機能によるハンドル操舵支

援が作動中であることを示します。

● 接近警報時

接近車両が存在することを示します。

■ 注意喚起表示

車線維持支援機能の作動中に、急カーブなどで曲がりきれず車線逸脱する可能性がある場合には表示による注意喚起を行い、運転者のステアリング操作をうながします。

また、車線変更支援機能が作動途中に停止した場合にも表示を行います。

状況によっては注意喚起が表示されない場合があります。

ヘッドアップディスプレイ表示

マルチインフォメーションディスプレイと同様にヘッドアップディスプレイに表示されます。

■ カーブ表示

路面のカーブに応じて、ヘッドアップディスプレイに表示されます。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ 車速が約 50 km/h 以上のとき ※1
・ システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50 km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレ

イの⚙で“操舵支援”を“ON”に設定しているとき（→P.76）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.228）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“ふらつき検知”を“ON”に設定しているとき（→P.76）
・車速が約 50 km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3 m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“操舵支援”を“ON”かつ“センタートレース”を“ON”に設定しているとき（→P.76）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4 m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.228）が行われていないとき
・ハンドルから手を離していないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

●車線変更支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・車線維持支援機能が作動しているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“レーンチェンジアシスト”を“ON”に設定しているとき（→P.76）
・自車速度が約 85 ～ 130 km/h のとき
・システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
・システムが白（黄）線を認識しているとき
・システムが車線を変更する側の白線を破線として認識しているとき
・車線を変更する先に車両が存在しないとき
・直線路またはゆるいカーブを走行しているとき
・ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起

（→P.228）が行われていないとき
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の接近警報が作動していないとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき
・カーブ速度抑制機能（→P.238）が作動していないとき
・ドライバー異常時対応システム（→P.247）が作動していないとき
・エンジン始動後にシステムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.225）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.225）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で“警報手段”を に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

●車線変更支援機能作動中に作動条件（→P.225）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●カーブ速度抑制機能（→P.238）が作動した場合でも、車線維持支援機能でカーブを曲がれない場合があります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■車線変更支援機能について

車速や車両の状況・路面状況などにより、車線変更支援機能の作動を感じにくかったり、車線変更支援機能が作動しなかったりすることがあります。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

次のような状況では、車線変更支援機能が作動途中で中止されることがあります。

●システムが白（黄）線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき

●車速が作動車速外になったとき

●運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ハンドル振動、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

機能が解除されず、ドライバー異常時対応システム（→P.247）が作動する場合があります。

- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、“警報手段”を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、“警報手段”を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

次のような状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

次のような状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、車線逸脱抑制機能や車線維持支援機能が継続することがあります。

- ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■LTA（レーントレーシングアシスト）の警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で 点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では 使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■車線変更支援機能の警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示された場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “レーンチェンジアシスト故障 販売店で点検を受けてください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

● “レーンチェンジアシスト 現在使用できません 取扱書を確認ください”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “条件を満たしていないため使用できません 取扱書を確認ください”

作動条件（→P.225）を満たしていないため使用できません。すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

● “現在の速度では使用できません”

車速が車線変更支援機能の作動可能範囲外のため、使用できません。作動可能な車速（→P.225）で走行し、再度方向指示レバーを操作してください。

● “周囲に車両を検知したため使用できません”

車線を変更する先に車両がいるため使用できません。周囲に車両がいないことを確認してから、再度方向指示レバーを操作してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.451）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。

認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

警告

■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報を選択したときは、最大３つの標識を表示できます。（→P.76）

● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.76）

・最高速度標識

・車両進入禁止標識（告知時のみ）

速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、OK を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して を選択し、OK を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、OK を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次にエンジンスイッチをイグニッション ON モードにした時には再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.451）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P.235）
- 定速制御モード（→ P.239）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（→ P.239）

システムの構成部品

■ メーター表示

A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ

A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.242

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.243

警告

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

警告

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.239）

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

▶ スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。

1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.239）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

▶ アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

LTA（→P.217）を ON にしているときは、ナビゲーションシステムと連携し、ハンドルをまわす前から車速の抑制を開始します。※

※ 自動車専用道路（一部除く）で作動します。

■ システム作動時の表示

車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON／OFF を切りかえることができます。

OK を押すごとに設定が切りかわります。

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.236）

制御を解除する・復帰させる（→P.238）

通信利用型レーダークルーズコントロール

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対

応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得

A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード

1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール

1 先行車の発進に素早く気づく

2 スムーズな加速で追従

3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの画面（→P.76）から、通信利用型レーダークルーズコントロールの ON（作動）/OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。（→P.237）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●走行モードをスノーモードにセットしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

●プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→P.309）が作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→P.309）が作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.199, 417）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速

が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.238）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●先行車の車高が極端に高いとき

■**車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■**カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システ

ムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、OK を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、OK を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、OK を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “告知タイミング” を選択し、OK を押す

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、高速道路または自動車専用道路（一部を除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。
ドア解錠やヘルプネット※自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常 / 異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合にはD「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。

A 手放し運転警告 （→P.228）

B「警告 1 状態」（約 15 秒）

C「警告 2 状態」（約 30 秒以上）

D「減速停止制御」（約 10 秒）

E「停止保持」

F 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。
G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●ナビゲーションシステムにて高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中

●レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

●自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

●B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
・レーダークルーズコントロール（全車

速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）（B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」のみ）
・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
・運転者がブレーキ操作をしたとき（D「減速停止制御」の場合、システムが、運転者が正常な状態に復帰し、ブレーキ操作をしたと判断したとき）
・運転者がアクセル操作をしたとき（D「減速停止制御」の場合、システムが、運転者が正常な状態に復帰し、アクセル操作をしたと判断したとき）
・ブレーキ異常検出時

●E「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・一度シフトポジションを P にした後、P 以外にしたとき
・エンジンスイッチをイグニッションONモードから OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

●B「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき

●C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。（→P.229）

■ドライバー異常時対応システムの留意事項

●ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。

●LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピーッ、ピーッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常 / 異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、約 15 秒間警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、C「警告 2 状態」に移行します。

C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピーピーピーピー・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常 / 異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40 km/h ～ 50 km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、D「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

知識

■**非常点滅灯（ハザードランプ）について**

C「警告 2 状態」移行後に、約 10 km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

■**D「減速停止制御」への移行について**

先行車の状況によって、自車速度が約 50 km/h 以下へ減速した場合でもD「減速停止制御」へ移行することがあります。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピピピピピ」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車するとE「停止保持」に移行します。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

D「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

■アクセル操作について

D「減速停止制御」中は、アクセル操作は無効になります。
アクセル操作を有効にするためには、アクセルを複数回踏む、またはハンドルを握るなどの操作でシステムの作動を解除して下さい。

E 「停止保持」

車両停車後、電動パーキングブレーキ自動ロックにより車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

E「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■アクセル操作について

E「停止保持」においては、アクセル操作は無効になります。
システムの作動が解除されるまでアクセル操作の無効化は継続し、パーキングブレーキの解除もできません。アクセル操作を有効にするためには、システムの作動を解除してください。（→P.248）

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。
ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯します。

ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.239 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本システムは、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名 :DTU-1010
  型式認定番号 :10005
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.257）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.254）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。
ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なと

き、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないこ

とを示すものではありません。

■ **右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）**

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **出会い頭注意喚起**

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中は FCTA（フロントクロストラフィックアラート）による注意喚起を行います。（→P.214）

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **赤信号注意喚起**

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ **信号待ち発進準備案内**

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

■ 一時停止注意喚起 ※

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 前方停止車両存在案内 ※

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

■ わき道車両存在案内 ※

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシ

ステム取扱説明書／ナビゲーション／地図の基本操作／DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能について」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

■ 通信車両接近通知の使い方

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。
ハンドルのメーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、∧ または ∨ を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・ トンネルや高架下を通過しているとき
・ エンジンを始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・ 他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向

車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.76）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の ON/OFF を変更することができます。

・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON/OFF を変更することができます。

・右折時注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※
・一時停止注意喚起
・前方停止車両存在案内
・わき道車両存在案内

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

・ 右折時注意喚起

・ 赤信号注意喚起

・ 一時停止注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON/OFF を変更することができます。

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更することができます。

※ FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

知識

■ **出会い頭注意喚起の支援タイミングについて**

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）の注意喚起タイミングと連動して変更されます。（→P.214）

Stop & Start システム

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの操作

■ **D レンジアイドリングストップ（ブレーキホールドシステムが OFF のとき）**

▶ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

▶ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ **D レンジアイドリングストップ（ブレーキホールドシステムが ON のとき）**

ブレーキホールドシステム作動時

（→P.178）も、Stop & Start システムは作動します。

▶ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても、Stop & Start システムによるエンジン停止状態を継続します。

▶ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

■ D レンジアイドリングストップ（レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が作動しているとき）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）による制御停車時（→P.235）も、Stop & Start システムは作動します。

▶ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。（ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します）

Stop & Start 表示灯が点灯します。

▶ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ P レンジアイドリングストップ

▶ エンジンが停止する

1 シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

D レンジアイドリングストップによりエンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が

点灯します。

2 シフトポジションを P にする（→P.169）

エンジンの停止状態が継続します。

D レンジでアイドリングストップした直後にシフトポジションを P にすると、エンジンが再始動することがあります。また、D レンジアイドリングストップしていなくても、シフトポジションを P にするとアイドリングストップすることがあります。

▶ エンジンが再始動する

ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを P 以外にする（→P.169）

P レンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルから足を離していたときは、再びブレーキペダルを踏んだときにエンジンが再始動します。P レンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルを踏んだままのときは、シフトポジションを P 以外にしたときにエンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

知識

■ **作動条件**

● 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
- ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］の車間制御モードの制御停車中を除く）
- エンジンが十分暖まっているとき
- 外気温が -5°C 以上のとき
- シフトポジションが D または P のとき
- フロントデフロスタースイッチが OFF のとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

● 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
- 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用しているとき
- バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）、および定期的な充電中のとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- 勾配が急な坂道で停車したとき
- ハンドル操作をしているとき
- 渋滞などで断続的に停車し、エンジン停止時間が長くなったとき
- 標高が高いとき
- エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
- バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
- バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、

一度走行してください）
・エアコンを ON にしたとき
・花粉除去モードを ON にしたとき
・フロントデフロスタースイッチを ON にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・D レンジアイドリングストップ中に、シフトポジションを M・N・R のいずれかにしたとき
・P レンジアイドリングストップ中に、シフトポジションを P 以外にしたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■ブレーキホールドシステム作動時の Stop & Start システムの作動について

●Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→P.178）が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。

このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても制御停車は継続します。（制御停車から追従走行に復帰させる：→P.237）

■ボンネットを開けたとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.164）でエンジンを始動してください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■Stop & Start システムについて

●長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。

●Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促がします。（→P.264）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.164）でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムによりエンジンが

再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■**Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき**

フロントデフロスタースイッチを ON にしてください。（エンジンが自動的に再始動します）：→P.327
断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■**Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて**

●オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

●空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■**Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは**

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■**エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて**

次の操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

●Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作
Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに、“Normal”（普通）・“Long”（長め）が切りかわります。（マルチインフォメーションディスプレイの “Stop & Start システム情報” 画面で確認できます）

●マルチインフォメーションディスプレイの（→P.79）、または
（→P.76）からのメーター操作

■**Stop & Start システム保護機能**

●バッテリーの急な消費を抑えるために、オーディオを大音量で使用していると、突然音が停止することがあります。
オーディオ停止を防ぐには、音量を下げて使用してください。
止まってしまったオーディオを再開するには、いったんエンジンスイッチを OFF にし、3 秒以上たってから、再度アクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■**バッテリーを交換するとき**

→P.438

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.79

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されることがあります。

●Stop & Startシステムによるエンジン停止が行われないとき

“ ブレーキをもう少し踏み込んでください ”

・ ブレーキペダルを踏む力が足りない

→ 停車後にブレーキペダルを踏み足すと作動します。

“ エアコン優先 ”

・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している

→ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。

・ フロントデフロスタースイッチを ON にしている

“ バッテリー充電中 ”

・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

・ リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：定期的な充電中、バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など）

→5 分～ 60 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。

・ 長期間（60 分以上）にわたって継続的に表示される場合

→ バッテリ劣化の可能性がありますので販売店に相談してください。

“ 作動準備中 ”

・ 標高が高い

・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した

→ ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

“ ハンドル操作 ”

・ ハンドル操作をした

“ シートベルト非装着 ”

・ 運転席のシートベルトをはずしている

“ アイドリングストップできません ”

・ 一時的にアイドリングストップを禁止している

→ エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある

→ ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。

“ システム温度が低い ”

・ バッテリーが冷えている可能性がある

→ トランク内の温度が上昇すると作動可能状態になります。

“ システム温度が高い ”

・ バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある

→ トランク内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。

“ 専用バッテリー非装着 ”

・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある

→Stop & Start システムが作動しません。レクサス販売店で点検を受けてください。

● Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

“ エアコン優先 ”

・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している

・ フロントデフロスタースイッチを ON にした

“ 作動準備中 ”

・ ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした

→ 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

“ バッテリー充電中 ”

・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

“ ハンドル操作 ”

・ ハンドル操作をした

“ シートベルト非装着 ”

・ 運転席のシートベルトをはずした

■Stop & Start システムの警告メッセージ

システムに異常が発生したときは、警告メッセージで注意をうながします。(→P.417)

■Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

● Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］の制御停車中は除く）
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

注意

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。

知識

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能（D レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していた

ブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品

A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.268）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.271）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。

1 ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して BSM を選択し、OK を押す

ブラインドスポットモニターが OFF になると、BSM OFF 表示灯が点灯します。エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに

いる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトポジションがR以外のとき

●車速が約16km/h以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2つ隣の車線を走行する他車※

●大きい速度差で自車が追い越す他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターをONにした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったと

き
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

PKSA（パーキングサポートアラート）

PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA （リヤクロストラフィックアラート）、リヤカメラで後方歩行者を検知しお知らせするRCD（リヤカメラディテクション）機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

駐車支援機能

■ **クリアランスソナー**

→P.273

■ **RCTA（リヤクロストラフィックアラート）**

→P.279

■ **RCD（リヤカメラディテクション）**

→P.283

警報ブザー

■ **ブザー音量調整**

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA、RCDのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.77）

1 < または > を押して を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、OK を押す

3 ∧ または ∨ を押して を選択し、OK を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイおよびセンターディスプレイの距離表示とブザー音・音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイおよびセンターディスプレイの作動表示が点灯します。（静止物との距離が近づくにつれ、一部の枠が点滅します。）

▶ マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイの表示

A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

▶ センターディスプレイの表示

A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON／OFF を切りかえます。（→P.77）

1 ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、OK を押す

3 ∧ または ∨ を押して P を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.64）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から P を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、復帰しません）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

警告

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することができます。（→P.272）

■マルチインフォメーションディスプレイに “ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません” が表示されたときは

センサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は、フロントバンパー周辺およびリヤバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が

出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき

●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**バッテリーを脱着したときは**

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

システムの作動範囲について

■ 静止物を検知できる範囲

A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近づきすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ ブザー音と静止物までのおおよその距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴り同時に音声案内を行います。複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー音：断続音 ※

フロントセンターセンサー：約 100cm ～ 60cm

リヤセンターセンサー：約 150cm ～ 60cm

● ブザー音：速い断続音 ※

約 60cm ～ 45cm

● ブザー音：非常に速い断続音 ※

約 45cm ～ 30cm

● ブザー音：連続音「ピー」

約 30cm 以下

※ 静止物との距離が近づくと、断続音「ピピ」の断続時間が短くなります。ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.267）

■システムを正しく作動させるために

→P.268

システムの構成部品

A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.280）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.77）

1 < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、OK を押す

3 ∧ または ∨ を押して “RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.64）が点灯します。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.269

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	40m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→P.272）

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バン

パープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

●斜めの駐車場から出庫するとき

●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき

●旋回しながら車両が近づいてきたとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき

●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき

●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。

●カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。

●カメラを分解・改造・塗装しないでください。

●カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。

●リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

●トランクやバックドアを完全に閉めてください。

警告

■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

センターディスプレイ

A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

B RCD OFF 表示灯

RCD 機能が OFF の時は、RCD OFF 表示灯が表示されます。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、RCD 機能は ON になります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.77）

1 ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、OK を押す

3 ∧ または ∨ を押して “RCD” を選択し、OK を押す

RCD 機能が OFF の時は、RCD OFF 表示灯（→P.64）が点灯します。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとセンターディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

A 歩行者が A エリアにいる場合
ブザー：繰り返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

B 歩行者が B エリアにいる場合
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合
ブザー：繰り返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

知識

■作動条件

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→P.272）

■マルチインフォメーションディスプレイに “ リヤカメラ検知現在使用できません レンズの汚れを除去してください ” が表示されたときは

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっては、汚れを取り除いた後も、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ リヤカメラ検知 現在使用できません ” が表示されたときは

●バッテリー脱着後などに表示された時は、ハンドルを左右いっぱいに回してください。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐

車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温 / 低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）**

→P.291

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）**

→P.293

■ **パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）**

→P.295

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー・レーダー・カメラでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- システムを故意に作動させる目的で、車や壁などの静止物・歩行者に向かって走行したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示されたときは

エンジンスイッチをイグニッションONモードにした直後に、メッセージが表示されることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を一括でON/OFFします。

メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。（→P.77）

1 ＜または＞を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して🚗を選択し、OKを押す

PKSBシステムをOFFした場合、PKSB OFF表示灯（→P.64）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙から🚗をON（作動）にし、システム作動状態にしないとPKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイ、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

ヘッドアップディスプレイに表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

PKSB OFF表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断し

たとき：

センターディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）

A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F エンジン出力を抑える

G 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）

A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F エンジン出力を抑える

G 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

H ブレーキ制御開始

I ブレーキ制御を上げる

J 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

K 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を再度 ON にする（→P.288）か、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度イグニッション ON モードにしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

●シフトポジションを P にした

●進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた

●車両の進行方向が切りかわった ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示されたときは

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトポジションが R 時以外も表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

●バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ現在使用できません”と“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

センサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ現在使用できません”と“ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

●センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

● 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき

● アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

● 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき

センサーの種類

→P.273

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.274

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.290

■洗車時の注意

●→P.275

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.66）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあ

とに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.278）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.276

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.277

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

● 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき

センサーの種類

→P.268

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.268

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.66）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.280）とは異なります。そのため、RCTA が後方接近車両との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.281

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.282

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。

センターディスプレイ表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作を促します。マルチインフォメーションディスプレイにも同様に表示されます。

A 歩行者検知表示

B ブレーキ表示

警告

■**万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは**

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■**パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために**

→P.283

知識

■**パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.66）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が 15km/h 以下
- シフトポジションが R のとき
- システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるとシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.290

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.284）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.285

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.285

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

A F SPORT 以外

B F SPORT

1 ノーマルモード／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。

ノーマルモードのとき、ノーマルモード表示灯が点灯します。
カスタムモードのとき、カスタムモード表示灯が点灯します。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

シフトポジションが D のとき、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適したギヤ段に切りかわる場合があります。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。（→P.320）

2 コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外のときにスイッチを手前側へまわすとコンフォートモードに切りかわり、コンフォートモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

コンフォートモードのときにスイッチを手前側へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

4 スポーツモード

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、スポーツ S モード表示灯が点

灯します。 （→P.321）

・ スポーツ S ＋モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、スポーツ S ＋モード表示灯が点灯します。

知識

■オープニング画面表示中にスイッチを操作したときは

ドライブモードは切りかわりますが、メーターの表示は切りかわりません。オープニング画面終了後、そのとき選択されているドライブモード表示に切りかわります。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

● エコ空調モードを OFF にする（→P.331）

● 風量を調整する（→P.327）

● エコドライブモードを解除する

■スポーツ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／カスタムモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

電子制御エアサスペンション

乗員や荷物重量にかかわらず、車高選択スイッチで選択した車高レベルを維持します。

また、次の車高制御の設定を変更することができます。

● 乗降モード

● 車高制御の一時停止

知識

■車高制御が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、車高の昇降速度が遅くなったり、正常な車高まで昇降しないおそれがあります。
・車体が雪・氷・石などにあたるとき
・気温が低いとき
・タンク内の空気圧が低いとき

●次のような状況では、車高は昇降しません。
・ボンネットまたはトランクが開いているとき
・ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
・段差や凹凸の大きい道路
・傾斜した道路

■エアサスペンション用コンプレッサーおよびバルブの作動音

次のときはコンプレッサーとバルブから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●乗降時や荷物の積み降ろしなどによって車高が変化したとき

●車高選択スイッチで車高を切りかえたとき

●ドアを開閉したとき

●ドアを施錠・解錠したとき

■タンク内の空気圧が低いとき

車高が昇降していないのにコンプレッサーとバルブがくり返し作動することがありますが、異常ではありません。

■マルチインフォメーションディスプレイに“エアサスペンション故障 販売店で点検してください”と表示されたときは

システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.451)

警告

■エアサスペンションについて

●エンジンが停止していたとしても、車高制御によって車高が変わることがあります。車体の下や車体とタイヤのあいだに手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

●次のような状況では、車高調整機能が作動しないように、車高制御をOFFにしてください。作動を停止しないと車高が変わり、車両に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・縁石などに乗り上げて駐車するとき
・脱輪したとき
・ジャッキアップするとき
・車両を固縛するとき
・けん引されるとき

警告

・タイヤパンク応急修理キット★で応急修理するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■駐車するとき

●長時間駐車する場合、気温の変化などにより車高が変わることがあります。駐車するときは、車高が変わったときに車体に接触するものがないことを確認してください。

●乗員が降りたときや、乗降モードが作動したときは、通常より車高が高くなりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

●ドアを閉じる、またはドアを施錠すると車高が下降することがあります。車両下部に接触して固定する装置がある駐車場では、車高制御を OFF にしてください。

車高を選択するには

路面の状況や走行状況にあわせて、車高選択スイッチで車高を切りかえることができます。

HIGH モードの ON ／ OFF を切りかえる

HIGH モードが ON のとき、メーター内のエアサスペンション HIGH モード表示灯が点灯します。
車高は Normal より約 20mm 高くなります。

乗降モードによって車高が上昇しているときは、車高選択スイッチを 2 回押すと HIGH モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。

知識

■車高選択スイッチの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■車高制御の保護機能

車高選択スイッチの操作などで車高の昇降を繰り返すと、システムが一時的に作動しなくなることがあります。

警告

■車高選択スイッチを操作するときは

車高選択スイッチを操作するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。車高が変わったときに、車両に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

乗降時の車高制御について（乗降モード）

車両の乗り降りを容易にするため、シフトポジションが P のときに、いずれかのドアを開けると自動で車高が上昇します。

次のいずれかの条件を満たすともとの車高にもどります。

● ドアが閉じた状態で一定時間経過した

● 車速が約 5km/h になった

● スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを施錠した

■ **乗降モードのON ／ OFFを切りかえるには**

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して HI を選択し、OK を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 乗降モード ” を選択し、OK を押す

押すごとに ON ／ OFF が切りかわります。

知識

■ **乗降モードによって車高が上昇しているとき**

エンジンスイッチのモードにかかわらず、車高選択スイッチを押すともとの車高にもどすことができます。

■ **乗降モードについて**

● 平坦な場所以外では作動しません。

● 車高の状態によっては、作動しないことがあります。

● ドアを解錠したあとに、乗降モードが作動すると車高が Normal より約 20mm 高くなります。一度走行したあとは、乗降モードが作動すると車高が Normal より約 10mm 高くなります。

● ドアの開閉を繰り返すと、システムが一時的に作動しなくなることがあります。

車高制御を一時停止するには

メーター操作スイッチを使って車高制御を一時的に OFF に設定します。（→P.77）

車高制御を一時的に OFF に設定する状況：→P.299

1 < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押す

3 ∧ または ∨ を押して HI を選択し、OK を押す

4 ∧ または ∨ を押して “ 車高制御 ” を選択し、OK を押す

エンジンスイッチを OFF にしても、車高制御の停止状態は継続します。

車高制御を OFF にしても、車速が約 30km/h になると自動で ON に戻ります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせて、フロントホイールが切れる角度を調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作に応じて後輪を切ることにより、車両の旋回性や応答性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブスタビライザーサスペンションシステム★

ハンドル操作量などに応じて、コーナーリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができ

ます。(→P.297)

■ LDH（レクサスダイナミックハンドリングシステム）★

VGRS・DRS・EPS を総合的に制御します。ハンドル操作と車速に応じて、前輪・後輪の切れる角度を制御することで、低速では旋回性、中速では応答性、高速では安定性の向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★・DRS★・アクティブスタビライザーサスペンションシステム★・AVS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 後方車両への接近警報

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF < スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF < スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF < スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF < スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF < スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュセーフティも OFF になります。（衝突警報のみ作動状態になります）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.213）

■ OFF < スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●エンジンスイッチが OFF

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進時のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
（LDH 装着車は、DRS も停止します）

●ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたとき（VGRS 装着車）

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキ

をくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”、“ウィーン” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●エンジン停止後 1 ～ 2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS・VGRS・DRS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき

・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“FHL 現在使用できません”が表示されたときは

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。
この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.268）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●低速走行しているとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

●車速が一定以下になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道

路から落下したとき

●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに“VGRS システムチェック”または“DRS システムチェック”と表示されたときは

VGRS や DRS が正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

■後側方レーダーセンサーの取り扱い

→P.268

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート用スマートキー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する （→P.96）

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

2 通常の手順でエンジンを始動する （→P.164）

3 “プラスサポートで始動しました” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

4 メーター操作スイッチの を押してメッセージを非表示にする

を押すまで、“プラスサポートで始動しました” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

警告

●エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.66）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したと

きは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km/h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km/h、後退時は約12km/h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・急アクセル時加速抑制作動中にブレーキオーバーライドシステムが作動したとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してく

ださい。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。※

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.377）

※ 前後のタイヤサイズが異なる車両には、タイヤチェーンを取り付けないでください。

知識

■タイヤチェーンについて

前後のタイヤサイズが同じ車両：

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

前後のタイヤサイズが異なる車両：

タイヤとボデーの隙間が狭いため、この車にはタイヤチェーンを装着できません。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン取り付けるとき（前後のタイヤサイズが同じ車両）

電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御を OFF にしてください。作動を停止しないと車高が変わり、車両に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P.301）

■タイヤチェーン装着時の警告（前後のタイヤサイズが同じ車両）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

警告

- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（前後のタイヤサイズが同じ車両）

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P.377 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着（前後のタイヤサイズが同じ車両）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.191）

室内装備・機能

5

5-1. リモートタッチ／ディスプレイ

リモートタッチ..... 318

センターディスプレイ 320

リヤマルチオペレーションパネル 322

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 325

5-3. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン 327

リヤオートエアコン..... 337

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 340

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 344

5-5. 収納装備

収納装備一覧 348

トランク内装備..... 354

5-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 357

リモートタッチ

リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ

A 戻るボタン

1 つ前の画面に戻ります。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

D タッチパッド

画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大 / 縮尺などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

■ タッチパッドの使い方

1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。

● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。

● フリック

タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。

● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた 2 本の指を広げたり近付けたりします。地図の拡大や縮小を行うことができます。

⚠ 注意

■リモートタッチの故障を防ぐために

● リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

● リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。

● タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

センターディスプレイ

ディスプレイの見方

■ メニュー画面

リモートタッチの “MENU” ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

画面に直接タッチして選択することもできます。詳細については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

次の画面イラストは一例で、実際の画面とは異なります。

スイッチ	機能
	目的地を設定する ※
	オーディオ操作画面を表示する ※
／ ／	デジタルテレビ操作画面を表示する ※ Apple CarPlay/Android Auto を接続すると、TV の代わりに Apple CarPlay/Android Auto が表示されます。※
	ハンズフリー操作画面を表示する ※
	G-Link 画面を表示する ※ SmartDeviceLink ™ Apps 画面を表示する ※
	情報画面を表示する（→P.88）
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する （→P.329）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、オーディオやエアコンなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。

■ **メイン画面**

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ **サイド画面**

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

‹ または › を選択してお好みの画面を表示する

A ナビゲーションシステム ※

B オーディオ ※

C 車両情報（→P.90）

D エアコン（→P.332）

E サイド画面の表示／非表示を切りかえる ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ **低温時の画面表示について**

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

リヤマルチオペレーションパネル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤアームレスト内のオペレーションパネルを使って、オーディオ・エアコン・シート・リラクゼーションシート・シェード・ランプの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

■ HOME 画面

A オーディオ操作画面を表示する（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。）

B リヤエアコン操作画面を表示する（→P.337, 341）

C リヤシート操作画面を表示する（→P.122, 131, 134）

D リヤのリラクゼーションシート★操作画面を表示する（→P.125）

E リヤのシェード／ランプ操作画面を表示する（→P.345, 361）

F リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する（→P.322）

G ショートカットスイッチ

押すごとに表示／非表示が切りかわります。

H ショートカット画面

次の機能を操作できます。

・リヤエアコンの温度設定（→P.337）
・リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター（→P.341）
・オーディオ（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。）
・リヤドア／リヤクォーターサンシェード／リヤサンシェードの開閉（→P.362）

I ボタン

HOME 画面を表示します。画面表示時は、押し続けると画面が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **リヤマルチオペレーションパネル設定画面**

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。

A 画面を消す

ボタンを押すと、HOME 画面を表示します。

B 画面の明るさを調整する

C 自動画面遷移設定

D 画面操作をロックする

■ **自動画面遷移設定画面**

A 一定時間画面操作を行わなかった場合、自動で画面が切りかわるかを設定できます。

B HOME 画面に切りかえるか画面表示を消すかを設定できます。

C 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 10 秒、30 秒、60 秒、120 秒の間で設定できます。

画面消灯した場合、ボタンを押すと消灯前の画面が表示されます。もう一度押すと、HOME 画面が表示されます。

■ **画面ロック解除**

上部のステータス表示（B）がすべて点灯するまでAを押し続けると、画面操作のロックが解除されます。

知識

■ **リヤマルチオペレーションパネルの取扱いについて**

●操作は指で行ってください。爪やペン等では操作できません。

●操作は一本の指で行ってください。他の指がふれていると操作できないことがあります。

●エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたとき、パネル上に手や物が置かれていたり、水や異物が付着していると、誤作動を起こすことがあります。その場合、それらを取り除き、30 秒ほど待ってから操作してください。万一、パネルの反応が元に戻らない場合は、ボタンを長押しして画面を OFF し、再度ボタンを押してから操作を行ってください。

●以下の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。

・手袋を着用しているとき
・濡れた手で操作したとき
・パネル面にフィルムを貼ったり、塗装をしたとき
・パネル面に水分や汚れが付着しているとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンス

タンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●リヤマルチオペレーションパネルが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
・小銭
・鍵
・財布や鞄の金属部品
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
・カイロ
・CD ／ DVD などのメディアや USB などのケーブル
・スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器

●リヤマルチオペレーションパネルが汚れていると、操作の反応が悪くなる場合があるため、定期的に清掃を行ってください。また、リヤマルチオペレーションパネルを清掃する際は、誤作動を防ぐため、画面を OFF にした状態で行ってください。

⚠ 注意

■リヤマルチオペレーションパネルの故障を防ぐために

●リヤマルチオペレーションパネルに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

●リヤマルチオペレーションパネルの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。

●リヤマルチオペレーションパネルを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

リモートタッチの“MENU”ボタンを押して にポインタを合わせ、表示されたショートカットメニューから を選択すると、クライメイトコンシェルジュ操作画面が表示されます。

クライメイトコンシェルジュを使用する

を選択する

画面上の作動表示灯が点灯し、エアコン・シートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ **クライメイトコンシェルジュ操作画面を切り替える★**

リヤ席の作動状況を確認するには、“リヤ”を選択する

フロントシートの操作画面に戻るときは、“フロント”を選択します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**クライメイトコンシェルジュを使用するときは**

サブファンクションメニューやオプション操作画面からもクライメイトコンシェルジュを作動させることができます。（→P.329）

各システムの作動について

■ **エアコン****（→P.327,337）**

各席の設定温度を別々に調整することができます。

■ **シートヒーター／ベンチレーター****（→P.340）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

■ **ステアリングヒーター****（→P.340）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

■**乗員検知機能について**

●助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。

●リヤ席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。※

※パワーリヤシート装着車

■**シートヒーター／ベンチレーターの作動について**

シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

■**リヤシートヒーターの作動について（左右独立コントロールエアコン装着車）**

クライメイトコンシェルジュによるリヤシートヒーターの自動制御はおこないません。

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの “MENU” ボタンを押して にポインタを合わせ、表示されたショートカットメニューから を選択すると、フロントエアコン操作画面が表示されます。

また、サイド画面に表示し操作することもできます。

エアコン操作スイッチについて

A 助手席側温度調整スイッチ

B 内外気切りかえスイッチ

C フロントデフロスタースイッチ

D リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

E 風量減スイッチ

F 風量増スイッチ

G OFF スイッチ

H AUTO スイッチ

I 運転席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッチを、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

→P.329

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように設定が切りかわります。

AUTO→ 外気導入 → 内気循環 →AUTO

AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入の切りかえを自動で行います。また、トンネル情報を考慮して最適な内外気設定に切りかえます。（トンネル連動内気 ※ ）

※ トンネル連動内気の設定を変更することができます。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

作動時間は周囲の温度や車速により変化します。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ 電子キーによるエアコン設定の記憶制御

- 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定 ※ を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ 運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・エコ空調モードを OFF にする（→P.329）
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する（→P.297）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

“A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声操作システムについて

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.390

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

フロントエアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択しま

す。

画面に直接タッチして選択することもできます。

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

: フロントエアコン操作画面を表示する

: ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示する

: リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター操作画面を表示する★

: クライメイトコンシェルジュ操作画面を表示する

: オプション操作画面を表示する

B 助手席の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 吹き出し口を切りかえる

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席の温度を調整する

F 次の機能の ON ／ OFF を切りかえる

“A/C” ：冷房・除湿する

インジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

: フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.335）

ECO HEAT/COOL: エコ空調モードに設定する

: クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

“DUAL” ：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.335）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

：フロントエアコン操作画面を表示する

：ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示する

：リヤエアコン操作画面を表示する

：リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター操作画面を表示する

：クライメイトコンシェルジュ操作画面を表示する

：オプション操作画面を表示する

B 助手席の温度を調整する

C 運転席側の吹き出し口を切りかえる

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

D 助手席側の吹き出し口を切りかえる

E 風量を切りかえる

F 次の機能の ON ／ OFF を切りかえる

“A/C” ：冷房・除湿する

インジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

：フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.335）

ECO HEAT/COOL：エコ空調モードに設定する

：クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

“4-ZONE” ：運転席と助手席およびリヤ席左右の設定温度を別々に設定する（独立モード）（→P.335）

G 運転席の温度を調整する

■ オプション操作画面

サブメニューの ••• を選択する

各機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

A クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

B 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.335）

C エコ空調モードを設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

D 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E 「ナノイー X」※ を作動させる

F フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.335）

G フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）★

H 花粉を除去する（花粉除去モード）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

A クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

B 運転席と助手席およびリヤ席左右の設定温度を別々に設定する（独立モード）（→P.335）

C エコ空調モードを設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

D 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E 「ナノイー X」※ を作動させる

F フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.335）

G フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）★

H 花粉を除去する（花粉除去モード）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **サイド画面**

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

A ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示する（→P.340）

B 風量を切りかえる

C 吹き出し口を切りかえる

D 冷房・除湿する

インジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E フロント席集中送風モード

（S-FLOW）を設定する（→P.335）

F 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.335）

G クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

A ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示する（→P.340）

B 助手席側の吹き出し口を切りかえる

C 風量を切りかえる

D 運転席側の吹き出し口を切りかえる

E 冷房・除湿する

インジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

F フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.335）

G 運転席と助手席およびリヤ席左右の設定温度を別々に設定する（独立モード）（→P.335）

H クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.325）

知識

■ウインドシールドデアイサー ★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動で OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します※3。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が または のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※3「ナノイー X」が ON のとき (→P.331)

警告

■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

2 AUTO モードになるまで内外気切りかえスイッチをくり返し操作する

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モード

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。
“A/C” が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、“A/C” が ON になり

ます。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない
- 花粉除去モードが作動していない

作動中はインジケーターが点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

オプション操作画面（→P.331）の

を選択し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1. 表示灯が消灯している状態でエンジンスイッチを OFF にする。
2. 60 分以上経過後にエンジンスイッチをイグニッション ON モードにする。

各席の設定温度を別々に設定する

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- メイン操作画面で “DUAL” を選択する（→P.330）
- オプション操作画面で “DUAL” を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

- メイン操作画面で “4-ZONE” を選択する（→P.330）
- オプション操作画面で

“4-ZONE” を選択する

● 運転席以外の設定温度を変更する

独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター／サイド

1 風向きを調整する

2 吹き出し口を開閉する

▶ リヤセンター／サイド

1 風向きを調整する

2 吹き出し口を開閉する

警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。

リヤオートエアコン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

センターディスプレイ、またはリヤマルチオペレーションパネルで操作することができます。

リヤエアコン操作画面について

■ **センターディスプレイ**

リモートタッチの“MENU”ボタンを押して にポインタを合わせ、表示されたショートカットメニューから を選択すると、リヤエアコン操作画面が表示されます。

画面に直接タッチして選択することもできます。

A 助手席側リヤ席の温度を調整する

B 助手席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

C リヤ席の風量を切りかえる

D 運転席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる

E 運転席側リヤ席の温度を調整する

F 次の機能の ON ／ OFF を切りかえる

“REAR Off”　：リヤ席のファンを停止する

“REAR AUTO”　：リヤ席の吹き出し口と風量が自動的に調整される（→P.338）

：リヤ席操作禁止機能を切りかえる

■ **リヤマルチオペレーションパネル**

HOME 画面で“エアコン”をタッチすると、エアコン操作画面が表示されます。（→P.322）

また、ショートカット画面でも一部の機能を操作できます。

リヤ席操作禁止機能が ON のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。

▶ エアコン操作画面

A 助手席側リヤ席の温度を調整する

B 助手席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

C リヤ席の吹き出し口と風量が自動的に調整される（→P.338）

D 運転席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる

E リヤ席のファンを停止する

F 運転席側リヤ席の温度を調整する

G リヤ席の風量を切りかえる

▶ ショートカット画面

A 助手席側リヤ席の温度を調整する

B 運転席側リヤ席の温度を調整する

オート設定で使用する

▶ センターディスプレイ

1 リヤエアコン操作画面の“REAR AUTO” を選択する（→P.337）

2 ファンを止めたいときは、リヤエアコン操作画面の “REAR Off” を選択する（→P.337）

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

▶ リヤマルチオペレーションパネル

1 エアコン操作画面の “AUTO” をタッチする（→P.337）

2 ファンを止めたいときは、エアコン操作画面の “OFF” をタッチする（→P.337）

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

各席の温度を設定する

次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

● “4-ZONE” 表示灯が消灯しているときに運転席の温度を設定する

リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。

● センターディスプレイのリヤエアコン操作画面もしくはリヤマルチオペレーションパネルでリヤ席の温度を設定する

操作した席の温度のみ設定されます。（独

立モード）

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ リヤセンター／サイド

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ ルーフサイド★

風向きの調整

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● フロントシートヒーター／リヤシートヒーター★

シートの表面を暖めることができます。

● フロントシートベンチレーター／リヤシートベンチレーター★

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

センターディスプレイ、リヤマルチオペレーションパネル★、またはリヤコントロールパネル★で操作することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

操作画面について

■ センターディスプレイ

スイッチを押してステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示します。

リモートタッチの “MENU” を押して にポインタを合わせ、表示されたショートカットメニューから を選択しても、ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面を表示することができます。

ショートカットメニューから を選択すると、リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター操作画面が表示されます。★

▶ メイン画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

画面に直接タッチして選択することもできます。

A シートベンチレーターの風量を切りかえる

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

B シートヒーターの温度を調整する

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

C ステアリングヒーターの温度を調整する ※

弱・強の２段階に調整できます。

D 次の機能を AUTO モードに切りかえる

AUTO モードが ON のとき、表示灯が点灯します。

AUTO：助手席側のシートヒーター／ベンチレーター

AUTO：ステアリングヒーター ※

AUTO：運転席側のシートヒーター／ベンチレーター

※ フロントシート操作画面のみ

▶ サイド画面

A エアコン操作画面を表示する：→P.332

B フロントシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

C フロントシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

D ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 弱 →OFF

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **リヤマルチオペレーションパネル ★**

HOME 画面で “ エアコン ” をタッチすると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーターを操作できま

す。（→P.322）

また、ショートカット画面でもリヤシートヒーター／リヤシートベンチレーターを操作できます。

リヤ席操作禁止機能（→P.337）が ON のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。

▶ エアコン操作画面

A リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

B リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

▶ ショートカット画面

A リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

B リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤコントロールパネル★

A リヤシートヒーターの温度を上げる

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

B リヤシートヒーターのオート設定を切りかえる

C リヤシートヒーターの温度を下げる

リヤシートヒーターの設定が弱のときに操作すると、リヤシートヒーターが OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■フロント席集中送風モード（S-FLOW）作動時は

乗員が運転席のみのときは、助手席側のシートヒーター / シートベンチレーターが停止します。（→P.335）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置

A リヤパーソナルランプ（→P.345）

B インサイドハンドル照明

C フロントパーソナルランプ（→P.345）

D フロントインテリアランプ（→P.345）

E 時計照明

F 足元照明

G エンジンスイッチ照明

H ドアトリム照明

I ドアカーテシランプ

J シートベルトバックル照明

K ドアハンドル照明

L リヤインテリアランプ（→P.345）

M シフト照明

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）をＯＮにする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

ON のときはインジケーター A が点灯します。

■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動しても点灯・消灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

■ リヤマルチオペレーションパネル★での操作

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シェード／ランプ” をタッチする （→P.322）

2 操作ボタンをタッチする

リヤインテリアランプが点灯・消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パーソナルランプを操作するには

■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

▶ リヤ

ランプを点灯・減光・消灯する

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

■ リヤマルチオペレーションパネル★での操作

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シェード／ランプ” をタッチする（→P.322）

2 操作ボタンをタッチする

リヤパーソナルランプが点灯・減光・消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.451）

■ フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

● レンズ面に水や汚れなどが付着してい

るとき

●濡れた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置

▶ パワーリヤシート非装着車

A 小物入れ（→P.352）

B カップホルダー（→P.350）

C グローブボックス（→P.350）

D コンソールボックス（→P.351）

▶ パワーリヤシート装着車

A クールボックス・小物入れ★（→P.352）

B 小物入れ（→P.352）

C カップホルダー（→P.350）

D グローブボックス（→P.350）

E コンソールボックス（→P.351）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

1 開ける（ボタンを押す）
2 メカニカルキーで解錠
3 メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P.108）

■仕切り板の取りはずし

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

仕切り板を引き抜く

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

カップホルダーのふたを押す

▶ リヤ（パワーリヤシート非装着車）

アームレストを手前に倒してカップホルダーを押す

▶ リヤ（パワーリヤシート装着車）

カップホルダーのふたのうしろ側を押す

知識

■リヤカップホルダーを収納するとき（パワーリヤシート非装着車）

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
ふたを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■カップホルダーの破損を防ぐために（パワーリヤシート非装着車）

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

フロントカップホルダー内のアクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

コンソールボックス

ボタンを押してふたを開ける

両側から開けることができます。

知識

■コンソールボックス内のトレイについて

トレイはスライドさせたり、取りはずすことができます。

■コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トレイについて

トレイの高さ以上にものを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

クールボックス・小物入れ★

1 アームレストを手前に倒してレバーを引く

2 冷風開閉口を開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クールボックスについて

エアコンの冷風を利用するため、リヤ席の上半身に送風されていないときは保冷されません。

■クールボックスに入れるものとして適さないもの

●ふたがされていない容器に入ったもの

●割れもの、腐るもの、匂いが強いもの

■クールボックスを小物入れとして使うには

保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

警告

■走行中の警告

クールボックス・小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ 天井

ボタンを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ リヤ席（パワーリヤシート非装着車）

アームレストを手前に倒しノブを押して開ける

▶ リヤ席（パワーリヤシート装着車）

アームレストを手前に倒しボタンを押して開ける

警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■収納してはいけないもの（天井）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トランク内装備

荷物固定用ネット

ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。

警告

■荷物固定用ネットを使用しないときは

けがをしないように、必ず固定用フックをもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

注意

■買い物フックの破損を防ぐために

5kg 以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

ラゲージマット

▶ サイド

ストラップを持ってラゲージマットを持ち上げ、取りはずす

▶ フロント

1 ストラップを持ってラゲージマットを持ち上げる

2 フックを使ってラゲージマットを固定する

もとの位置にもどすときは、フックを押してラゲージマットをはずす

⚠ 注意

■ フックの損傷を防ぐために

フックに買い物袋などを吊り下げないでください。

小物入れ

ラゲージマットを持ち上げ使用する

救急箱等固定用バンドを使うには

1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板等固定用バンドを使うには

■ ベルトを使用する

1 ベルトをゆるめる
2 クリップにはさむ
3 ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ ベルトを収納する

1 折りたたむ
2 クリップにはさむ

三角表示板等固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは収納してください。

警告

■三角表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キット固定用ネット★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ネットを使ってタイヤパンク応急修理キットを固定することができます。

ネットをフックにかけて使用してください。

警告

■トランク内にタイヤパンク応急修理キットを格納するときは

ネットで固定されていることを確認してください。
急ブレーキをかけたときなどにタイヤパンク応急修理キットが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。
この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。
ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

小物入れのフタを開けて使用する

▶ パワーリヤシート非装着車

▶ パワーリヤシート装着車

知識

■充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用USB 端子を長時間使用しないでください。

アームレスト

▶ パワーリヤシート非装着車

手前に倒して使用します。

▶ パワーリヤシート装着車

レバーを引いて手前に倒します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフックを使うには

▶ A タイプ

使用するときは、コートフックを押します。

▶ B タイプ

使用するときは、コートフックを押します。

警告

■ **コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

アクセサリーソケット / アクセサリーコンセントを使うには

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V：DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品
AC100V：AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ **アクセサリーソケット**

▶ フロント

カップホルダーのふたを開けて使用する

▶ コンソールボックス

ふたを開けて使用する

■ **アクセサリーコンセント（AC100V・100W）**

ふたを開けて使用する

知識

■使用条件

●アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

●アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

●アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

●アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ショートや故障を防ぐために

●アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

●アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■誤作動を防ぐために

エンジンスイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠ができない

●メーターのオープニング画面が表示される

●室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時のピーク電力が高い電気製品

●精密なデータを処理する計測機器

●電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器

●極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

サンバイザーを使うには

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

▶ フロント

カバーをスライドして開ける

ランプが点灯します。

▶ リヤ

ボタンを押して開ける

ランプが点灯します。

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

リヤドア／リヤクォーターサンシェードを展開／格納するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウスイッチやリヤマルチオペレーションパネルの操作ボタンを使ってリヤドア／リヤクォーターサンシェードを展開／格納できます。

■ 運転席からの操作

スイッチを操作する

A リヤドアサンシェード

B リヤクォーターサンシェード

1 展開

2 格納 ※

※ リヤドア／リヤクォーターサンシェードが格納時または格納作動中にスイッチを操作すると、リヤドアガラスが開きます。

■ リヤ席からの操作

リヤ席のパワーウインドウスイッチでは、リヤドア／リヤクォーターサンシェードを展開することはできません。

▶ リヤシェード／ランプ操作画面

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シェード／ランプ” をタッチする (→P.322)

2 操作ボタンをタッチする

リヤドア／リヤクォーターサンシェードが展開 / 格納します。

▶ ショートカット画面

操作ボタンをタッチする

リヤドア／リヤクォーターサンシェードが展開 / 格納します。

知識

■ 作動条件

● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

● リヤドアガラスが完全に閉じているとき

■ リヤドア／リヤクォーターサンシェード展開時の作動

リヤ席のパワーウインドウスイッチを操作すると、リヤドア／リヤクォーターサンシェードが格納されるとともにリヤドアガラスが開きます。

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、しばらくの

あいだはリヤドア／リヤクォーターサンシェードを操作できます。ただし、運転席ドアを開閉すると、運転席のスイッチからは操作できなくなります。

■挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠とのあいだに異物が挟まるとリヤドアサンシェードが停止し、少し展開 / 格納します。

■バッテリーを再接続したときは

バッテリーを再接続したあと、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドア／リヤクォーターサンシェードは格納方向に動きます。

警告

■リヤドアサンシェード作動中は

リヤドア／リヤクォーターサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

注意

■正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤドア／リヤクォーターサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。

リヤサンシェードを展開／格納するには

リヤサンシェードスイッチやリヤマルチオペレーションパネルの操作ボタンを使ってリヤサンシェードを展開／格納できます。

■ フロント席からの操作

展開／格納

■ リヤ席からの操作

▶ パワーリヤシート非装着車

展開／格納

▶ パワーリヤシート装着車（リヤシェード／ランプ操作画面）

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シェード／ランプ” をタッチする（→P.322）

2 操作ボタンをタッチする

サンシェードが展開 / 格納します。

▶ パワーリヤシート装着車（ショートカット画面）

操作ボタンをタッチする

サンシェードが展開 / 格納します。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **エンジンスイッチ OFF 後の作動**

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、しばらくのあいだはリヤドアサンシェードを操作できます。

■ **リバース連動機能**

リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。
ただし、以下のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトポジションを P に入れる
- シフトポジションを P と R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

警告

■ **リヤサンシェード作動中は**

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■ **正常に機能させるため**

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 366

内装の手入れ 369

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 372

ガレージジャッキ..... 373

エンジンルームカバー..... 374

ウォッシャー液の補充..... 377

タイヤについて..... 377

タイヤの交換 386

タイヤ空気圧について 389

エアコンフィルターの交換 390

電子キーの電池交換..... 392

ヒューズの点検・交換..... 394

電球（バルブ）の交換..... 396

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワートランクリッドを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- Nポジションに保持したままエンジンスイッチをアクセサリーモードにする必要があるときは、P.173 を参照してください。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.110）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT）

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディングについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

A OFF

B AUTO

警告

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管（バンパー一体ディフューザー付き）について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントバンパーについて

フロントバンパーの塗装に傷がつくと、Lexus Safety System + A が正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System + A
- BSM
- 後方車両への接近警報
- RCTA
- PKSB

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

● 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
（→P.31）
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
（→P.195）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

インストルメントパネル上面のファブリック部分の手入れをするには

- 掃除機や粘着テープなどでほこりを取り除く
- 水を浸した布を固くしぼり、汚れをふき取る

クリーナー等の洗剤を使用しないでください。

ボンネット

ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■バッテリーについて

この車両のバッテリーはトランクのラゲージマット下にあり、エンジンルームには搭載されていません。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■バッテリーの取り扱いについて

→P.438

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

▶ FR 車

▶ AWD 車

■ リヤ側

エンジンルームカバー

ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

警告

■けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■カバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

エンジンルームカバーの取りはずし

▶ 外側

▶ 前側

クリップの取り付け

1 クリップの中央部分Aを押し上げる
2 挿し込む
3 クリップ中央部分を押す

エンジンカバーの取りはずし

カバーの手前を上げてから引き抜く

エンジンカバーの取り付け

エンジンカバーのツメを引っかけてから取り付ける

サービスカバーの取りはずし

1 助手席側のゴムをまわしてはずす

2 サービスカバーをはずす

ツメを押しながら、サービスカバーを持ち上げてはずします。

サービスカバーの取り付け

1 サービスカバーを取り付ける

奥のツメを引っかけてから取り付けます。

2 ゴムをもとどおりに取り付ける

ウォッシャー液の補充

補充をするには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、AWD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧の数値

空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
前輪	後輪
250（2.5）	250（2.5）

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら（ランフラットタイヤ非装着車）

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両

▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

ランフラットタイヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に または マークが付いています。

▶ タイヤサイズが XXX/XXRXX のタイヤ

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、80km/h をこえない速度で、約 80km まで走行することが可能です。（ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります）

80km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。

▶ タイヤサイズが XXX/XXRFXX のタイヤ

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、80km/h をこえない速度で、約 160km まで走行することが可能です。（ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります）

160km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。

知識

■ランフラットタイヤの取り扱いについて

●ランフラットタイヤはこの車専用のた

め、他の車には使用しないでください。

●ランフラットタイヤと標準タイヤを混ぜて使用しないでください。

●レクサス指定の純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能性が発揮されないおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.76）

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.412）

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで2、3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで2、3分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウ

に貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.383）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

注意

- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき (→P.383)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンを始動する (→P.164)

4 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する

5 ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、OK を押す

6 ∧ または ∨ を押して “TPWS” を選択し、OK を押す

7 ∧ または ∨ を押して “初期化” を選択し、タイヤ空気圧警告灯が３回点滅を開始するまで OK を押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッセージが表示され、初期化を開始します。

初期化中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。
約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了できますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。(→P.383)

知識

■初期化するときは

●通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

●車速が約40km/h以上のときに行われます。

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

●初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

● 新しいバルブ／送信機を装着したとき

● すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

2 エンジンを始動する （→P.164）

3 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

4 ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押す

5 ∧ または ∨ を押して “TPWS” を選択し、OK を押す

6 ∧ または ∨ を押して “ 自動 ID 登録 ” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり３回点滅を開始するまで OK を押し続ける

ID コード登録中のメッセージが表示され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

7 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.382）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

8 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。（→P.385）

9 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.382）

知識

■ID コードの登録をするときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、

直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- 車高制御を OFF にする（→P.301）
- エンジンを停止する

知識

■工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御を OFF にしてからエンジンを停止する（→P.301）
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

警告

■パワートランクリッド装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、トランクオープナーメインスイッチ（→P.108）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワートランクリッドスイッチを操作したときにトランクが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

タイヤの取りはずし

1 輪止めをする

交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。

警告

■タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

A ホイール

B 座金

3 車体を下げる

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m（1428kgf・cm）

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後は、すぐに 140N・m（1428kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.381

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

●燃費の悪化

●乗り心地や操縦安定性の低下

●摩耗によるタイヤ寿命の低下

●安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

●タイヤが冷えているときに点検する

●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。

●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

●荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

1 エンジンスイッチを OFF にする
2 グローブボックスを開け、仕切り板をはずす（→P.350）
3 パネルを取りはずす

4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

5 フィルターケースを取りはずす

6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■**エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■**エアコンの風量が減少したときは**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

■**リヤエアコンフィルター★について**

交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**エアコンを使用するときの注意**

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■**フィルターカバーの破損を防ぐために**

●フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。
電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池交換はレクサス販売店で実施してください。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く

2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）

サービスカバーを取りはずし（→P.376）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム（2）

エンジンルームカバーを取りはずし（→P.375）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元

ツメを押しながら、カバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ 助手席足元

ツメを押しながら、カバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ トランク内

ラゲージマットを取りはずす（→P.354）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

4 ヒューズが切れていないか点検する

A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

警告

- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 398
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 399
発炎筒 399
車両を緊急停止するには..... 400
水没・冠水したときは..... 401

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 403
フューエルポンプシャットオフシステム 408
警告灯がついたときは..... 409
警告メッセージが表示されたときは..... 417
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 419
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）..... 428
エンジンがかからないときは .. 429
キーをなくしたときは..... 431
給油扉が開かないときは..... 431
電子キーが正常に働かないときは..... 432
バッテリーがあがったときは .. 434
オーバーヒートしたときは..... 441
スタックしたときは..... 444

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.399）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.399）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

A 停止表示板

B 停止表示灯

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

●エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。

知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスと

ドアガラスには合わせガラスが使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶FR 車

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

▶AWD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御を OFF にしてください。作動を停止しないと車高が変わり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  (→P.301)
- パーキングロックにより後輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

警告

・エンジンスイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより後輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

● シフト制御システムに異常があるとき（→P.166, 418）

● エンジンイモビライザーシステムに異常があるとき（→P.57）

● スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.432）

● バッテリーがあがったとき（→P.434）

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

● エンジンはかかるが車が動かない

● 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは

台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

- ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御を OFF にしてください。固縛後に車高が変わると、車両の損傷につながるおそれがあります。（→P.301）

他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、け

ん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のプラスドライバーとけん引フックを取り出す（→P.354）

A プラスドライバー

B けん引フック

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 プラスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上

A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。(→P.175)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

レクサス販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

A 緊急用フック

■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のプラスドライバー、けん引フックを取り出す

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 プラスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** ブレーキパッドの摩耗（右輪のみ検知） **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.441）に従ってください。**

※マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ポップアップフード警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した **→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。** ポップアップフードの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** ●アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 ●衝突時の急加速抑制が作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ●パーキングサポートブレーキ（静止物）作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ●速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 13L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
 （F SPORT 以外） （F SPORT）	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.415）に従ってください。**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.229）**

■ LCA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	LCA（レーンチェンジアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.229）**

■ Stop & Start キャンセル表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅）	Stop & Start システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ RCD OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
RCD OFF （点滅）	ブザーが鳴った場合： RCD（リヤカメラディテクション）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.285, 417）**

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.199, 418）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.213**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）システム★の異常 ●DRS（ダイナミックリヤステアリング）システム★の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
P （点滅）	パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.419, 428

パンクしていないときは：
エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.382）

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.380

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（タイヤパンク応急修理キット装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（ランフラットタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/h をこえない速度で走行してください。

●ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.382）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。
処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。
また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.409）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“エンジン停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■“バッテリー保護のため自動で電源をOff しました”が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■“ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- マルチウェザーライト

■“クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.199）

■“クルーズコントロール 現在使用できません”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走

行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ドライブスタートコントロール（→P.162）
- プラスサポート（販売店装着オプション）（→P.310）

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.199, 414）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能
- ドライバー異常時対応システム

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.199, 414）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
  - “エンジン冷却水高温”（→P.441）
  - “バッテリ充電不足”（→P.434）
  - “AT オイル高温”（→P.168）
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
  - “スマートエントリー＆スタートシステム故障”
  - “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
  - “P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
  - “シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”

・“シフトシステム故障 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“故障のためブレーキ力が低下”
・“充電システム故障”
・“エンジン油圧不足”

注意

■“電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

お客様の車には、スペアタイヤが搭載されていません。タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

●短い距離の運転でも、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

応急修理する前に

● 地面が固く平らで安全な場所に移動する
● パーキングブレーキをかける
● シフトポジションを P にする

● 車高制御を OFF にする
（→P.301）

● エンジンを停止する

● 非常点滅灯を点滅させる
（→P.399）

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

●補修液の有効期限がきれているとき

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

搭載位置：→P.356

▶ ボトル

A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー

A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

警告

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

注意

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●砂ぼこりや水を避けるため、応急修理キットはケースに収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

応急修理をするには

1 応急修理キットをケースから取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す

3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。

4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.359）

10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。（→P.377）

12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.426, 449）

15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください。

21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

A 空気圧が 130kpa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kpa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.449）の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■応急修理キットを使用したときは

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■空気を入れすぎてしまったときは

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く

3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
  ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）

お客様の車には、スペアタイヤが搭載されていません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。（タイヤについての詳しい説明はP.377 を参照してください）

ランフラットタイヤ

ランフラットタイヤがパンクしたときは、次の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

● 80km/h 以下で走行する

● 急ハンドル・急ブレーキを避ける

● タイヤサイズが XXX/XXRXX のタイヤ：80km 以上走行しない
タイヤサイズが XXX/XXRFXX のタイヤ：160km 以上走行しない

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に または マークが付いています。

知識

■高温時などは

タイヤサイズが XXX/XXRXX のタイヤ：80km まで走行できない場合があります。

タイヤサイズが XXX/XXRFXX のタイヤ：160km まで走行できない場合があります。

■ランフラットタイヤについて

→P.379

注意

■タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.164）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P.164）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.57）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.167, 418）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があり

ます。（→P.434）

- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→P.372）

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.430）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→P.372）
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.434）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.175）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.111）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●センターディスプレイまたはレクサス販売店でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.111）

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

■ ドアを解錠するには

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。（→P.95）

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む

2 キーを回してドアを解錠する

3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアを施錠するには

1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる

▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

■ **トランク**

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

知識

■ **キー連動機能**

1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

2 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジン始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてエンジンスイッチを押します

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.392)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.58)

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.166)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

▶ バッテリーに接続する場合

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.59）

2 トランクを開け、ラゲージマットをはずす（→P.354）

トランクオープナースイッチで開かない場合は、メカニカルキーで開けます。（→P.432）

3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を、自車のバッテリーの－端子 D につなぐ

A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D バッテリーの－端子（自車）

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

8 Stop & Start キャンセルスイッチを押して、Stop & Start システムを非作動にする（→P.266）

▶ 救援用端子に接続する場合

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.59）

2 ボンネットを開けて、サービスカバーをはずす（→P.372, 376）

3 ヒューズボックスのカバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします

4 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

5 エンジンカバーを取りはずす（→P.375）

6 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースター

ケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を、未塗装の金属部 D につなぐ

A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

7 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

8 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

9 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

10 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

12 サービスカバーをもとどおりに取り付ける（→P.376）

13 エンジンカバーをもとどおりに取り付ける（→P.375）

14 Stop & Start キャンセルスイッチを押して、Stop & Start システムを非作動にする（→P.266）

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。（Stop & Start システムによるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、

不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.465）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

●バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

●バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

■バッテリー上がりの処置をしたあとは

バッテリー充電のために Stop & Start システムを非作動にして下さい。（→P.266）

■バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプのバッテリー（欧州規格）を使用してください。

●装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。純正品と同等またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN5）、20 時間率容量（20HR）が同等（85Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（852A）以上のバッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始

動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いているバッテリーを使用してください。
取っ手が付いていないバッテリーを使用すると、バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。
・排気穴栓は、交換したバッテリーに付属のもの、または交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換するバッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）

A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店でバッテリーの点検を受けてください。
バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

警告

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換したバッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的にバッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.68, 71）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

- エンジン

A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

D 冷却水注入口のキャップ

- インタークーラー

A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

● エンジン

→P.442

● インタークーラー

エンジンルームカバーを取りはずし、冷却水を補給する

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

知識

■ **エンジン冷却水を補給するとき**

次の手順で冷却水を注入してください。

1 エンジンルームカバーを取りはずす

2 エンジンカバーを取りはずす
（→P.375）

3 キャップ A と B を開ける

4 キャップ A の注入口から “F” （上限）ライン C まで冷却水を注入し、キャップ A を取り付ける

5 キャップ B の注入口が満水になるまで冷却水を注入し、キャップ B を取り付ける

6 エンジンルームカバーとエンジンカバーを取り付ける（→P.375）

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、エンジンカバー内側の冷却水注入口のキャップや冷却水リザーバータンクのキャップまたはインタークーラーリザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、エンジンを停止する
2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3 後輪の下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF < スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 446

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 451

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 465

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	82

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	5.8※2 6.6※3	6.3※2 7.1※3

※1エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2FR 車（後輪駆動）

※3AWD 車（4 輪駆動）

■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

オイル粘度について（例として0W-20で説明します）：

- 0W-20の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20の20は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

■ **指定エンジンオイル**

API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RCか、ILSAC規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20が入手困難な場合は、5W-30もご使用いただけます。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度30%　－12°C 濃度50%　－35°C	エンジン	10.6
	インタークーラー	4.3

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルードWS	8.9

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（AWD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正トランスファギヤオイル LL80	0.7

フロントディファレンシャル（AWD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5, SAE 75W-85）	0.65

リヤディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5, SAE 75W-85）	0.85※1 1.35※2

※1FR 車（後輪駆動）

※2AWD 車（4 輪駆動）

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	122

※1ブレーキペダルの点検に併せて、エンジン回転時に、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.409 を参照してください）

※2エンジン回転時に 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキパッド

項目	使用限度値［mm］
ブレーキパッドの厚み	1

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.409 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

▶ 19 インチタイヤ装着車

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
245/50R19 101W	19 × 8J	250（2.5）	250（2.5）

▶ 20 インチタイヤ装着車

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
245/45R20 99Y	20 × 8 1/2J	250（2.5）	250（2.5）
245/45RF20 99Y	20 × 8 1/2J	250（2.5）	—
275/40RF20 102Y	20 × 9 1/2J	—	250（2.5）

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm）］
140（1428）

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
LS500	VXFA50	V35A-FTS（3.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
	VXFA55		AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・センターディスプレイ・リヤマルチオペレーションパネルの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する

3 画面の表示に従って機能の作動内容を選択し、OK を押す

前の画面にもどったり設定を終了したりする場合は、メーター操作スイッチの ↩ を押します。

■ センターディスプレイで設定するには

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、“設定・編集” を選択する

2 “設定・編集” 画面の “車両” を選択する

3 “車両カスタマイズ” または “ドライブモードカスタマイズ” を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+” または “－” を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ リヤマルチオペレーションパネル★で設定するには

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” をタッチする

2 “左席” または “右席” をタッチする

3 ⚙ をタッチする

4 ボタンをタッチして設定を変更する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C リヤマルチオペレーションパネル★で設定変更可能

D レクサス販売店で設定変更可能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ シートベルト（→P.27）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
イージーアクセスバックル★	あり	なし	—	—	—	○
車速が約 20km/h 以上でのフロント席シートベルト巻き取り	あり	なし	—	—	—	○
フロント席ドアを開けたときやシートベルトを解除したときのフロントシートベルト巻き取りサポート	あり	なし	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.68, 71, 76）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C	D
言語	日本語	英語	—	○	—	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—	—
車速表示 ※2	デジタル	アナログ	—	○	—	—
		両方表示				
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	設定できる項目は P.78 を参照	—	○	—	—
	リセット間平均燃費					
ドライブインフォ 2	航続可能距離		—	○	—	—
	リセット間平均車速					
時計	12 時間表示	24 時間表示	—	○	—	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—	—
テーマカラー	カラー 1	カラー 2	○	○	—	—
REV インジケーター ※3	5000r/min	2000 ～ 6400r/min	—	○	—	—
		なし				
REV ピーク ※3	あり	なし	—	○	—	—
エコドライブインジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	—	—	○
		なし				

※1 機能についての詳しい説明は P.81 を参照してください。

※2 F SPORT 以外

※3 F SPORT

■ ヘッドアップディスプレイ（→P.83）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
タコメーター切りかえ	タコメーター	エコドライブインジケーター	—	○	—	—
		表示なし				
目的地案内	あり	なし	—	○	—	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—	—
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—	—

■ ドアロック（→P.96, 102, 432）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	—	○
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	—	○

■ リヤシートリマインダー機能（→P.98）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
リヤシートリマインダー機能	あり	なし	—	○	—	—

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.96, 109）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	—	○
		レベル 1 ～ 7				
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	—	○
		120 秒				
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.96, 109）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	2.0 秒	非作動	—	—	—	○
		1.5 秒				
		2.5 秒				
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	—	○
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.94, 96, 102）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	—	○
		2 回押し				
		1 回押し続ける（長）				
		非作動				

■ トランク（→P.102）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）★	あり	なし	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロントシート（→P.115）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
運転席前後調整に連動したヘッドレストの上下作動	なし	あり	—	—	—	○

■ パワーリヤシート★（→P.121）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
自動シート作動（ドア連動シートリターン機能とシフト連動リクライニング機能）	あり	なし	—	—	○	—
オットマン付きシート★の降車時ドア連動シートリターン機能で戻る位置	中立位置よりも前	中立位置	—	—	○	—
シフト連動リクライニング機能	あり	なし	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーイージーアクセスシステム（→P.127）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
降車時の運転席シート前後移動量	標準	OFF	○	—	—	○
		少なめ				
降車時の運転席シート上下移動量	OFF	標準	○	—	—	○
		少なめ				

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ハンドルの作動	チルトのみ	テレスコピックのみ	○	—	—	○
		チルト＆テレスコピック				
		なし				

■ メモリーコール機能（→P.129）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	—	○

■ ドアミラー（→P.145）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	—	○
		エンジンスイッチと連動				

■ パワーウインドウ、ムーンルーフ★共通（→P.148, 151）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.162）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
後退速度の抑制制御	あり	なし※	—	○	—	—

※ “なし” に変更しても、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに “あり” に戻ります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.180）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ライトセンサーの感度調整	-2	-2 ～ +2	○	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	あり	なし	—	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	エンジンスイッチを OFF にする	—	—	—	○

■ ランプ（→P.180）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
LED デイタイムランニングランプ	あり	なし	—	—	—	○
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	—	—	○

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）（→P.183）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
システム制御	すべて作動	ハイビーム／ロービーム自動切りかえのみ作動	—	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	—	—	○
		普通				
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	—	○
		約 80km/h から作動				
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	—	○
発進時のコーナーリングランプ点灯	あり	なし	—	—	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	—	—	○

■ マルチウェザーライト（→P.187）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
マルチウェザーライトの作動	あり	なし	—	—	—	○

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.201）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
プリクラッシュセーフティ機能 ※	あり／なし	—	○	—	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—	—
歩行者注意喚起	あり／なし	—	○	—	—

※ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）（→P.215）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
FCTA 機能	あり／なし	—	○	—	—
注意喚起タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—	—

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.217）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—	—
操舵支援機能	あり／なし	—	○	—	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—	—
警報感度	高／普通	—	○	—	—
車線変更支援機能（LCA[レーンチェンジアシスト]）	あり／なし	—	○	—	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.230）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—	—
通信利用型レーダークルーズコントロール機能	あり／なし	—	○	—	—

■ 先行車発進告知機能（→P.244）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—	—

■ ITS Connect（→P.252）

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	B	C	D
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—	—
支援タイミング	早い	遅い	—	○	—	—

※ 機能についての詳しい説明は P.258 を参照してください。

■ Stop & Start システム（→P.259）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間	普通	長め	—	○	—	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.267）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—	—
		遅い				
		死角領域の車両のみ検知				

■ PKSA（パーキングサポートアラート）（→P.272）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—	—
		レベル 3				

■ クリアランスソナー（→P.273）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—	—

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.279）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—	—

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.283）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
RCD（リヤカメラディテクション）機能	あり	なし	—	○	—	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.286）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.297）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
カスタムモード時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—	—	—
		Eco				
カスタムモード時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—	—	—
		Comfort				
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—	—	—

■ 電子制御エアサスペンション（→P.299）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
車高制御	あり	なし	—	○	—	—
乗降時の車高調整機能	あり	なし	—	○	—	—

■ エアコン（→P.327）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ～ 3	○	—	—	○

■ ステアリングヒーター（→P.340）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2（低め）～ +2（高め）	○	—	—	○

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.340）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	—	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	—	—	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整★	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	—	—	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整★	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	—	—	○
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときの、左側リヤシートヒーターの自動起動 ※	なし	あり	○	—	—	○
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときの、右側リヤシートヒーターの自動起動 ※	なし	あり	○	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ パワーリヤシート非装着車

■ イルミネーション（→P.344）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	—	○
		7.5 秒				
		30 秒				
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドアトリム照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	—	○
		7.5 秒				
		30 秒				
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
・シフトポジションを P 以外にすると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

●センターディスプレイ以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするまでセンターディスプレイには反映されません。

■時計の設定について

時計の設定を変更するときに時刻調整画面が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.291
クリアランスソナー	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.277
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・ID コードの登録を実施したとき	P.382
パノラミックビューモニター	・バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・バッテリーの電圧が低下したとき ・バッテリーを脱着したとき	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 468
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 470
アルファベット順さくいん …… 472
五十音順さくいん…… 474

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.431）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.431）

キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.392）

施錠・解錠できない

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.166）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.111）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.101）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.106）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.164）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.110）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.165）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→P.430）

● バッテリーがあがっていませんか？（→P.434）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.165）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。
（→P.150）

エンジンスイッチが自動的にOFF になった

● 一定時間アクセサリーモードにしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.167）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.470）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.409、417 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。
（→P.419）

● ランフラットタイヤ装着車

なるべく速度を落として慎重に運転し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。（→P.428）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.444）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.58
ドアを開閉したとき	ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P.152
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.58
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.106
エンジンスイッチをOFF にしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.98
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.92
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.98
	電子キーを車内に置き忘れている	P.110

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアまたはトランクを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.100
	パーキングブレーキが解除されていない	P.177
	シートベルトを着用していない ※	P.412
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.173
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.238
前方もしくは側方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.201
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.217
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.230
進入禁止区域に進入したとき		

状況	原因	詳細
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.247
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.252
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		

状況	原因	詳細
障害物との距離が近づいたとき	クリアランスソナーが作動した	P.273
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.279
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.283

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 327, 337
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 302
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
..... 183
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 302, 305
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 168
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 302
AWD
（オールホイールドライブ）.... 450
BSM
（ブラインドスポットモニター）267
DRS
（ダイナミックリヤステアリング）
..... 302
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）..... 302
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 6
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 302
FCTA
（フロントクロストラフィックアラート）..... 214
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）
..... 450
Harmonious Driving Navi. 画面 .87
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）....83
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....447
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....42
ITS Connect 252
LCA
（レーンチェンジアシスト）.....217
LDH
（レクサスダイナミックハンドリングシステム）.....303
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....180, 396
LED デイタイムランニングランプ181
Lexus Safety System + A
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....183
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....214
LTA（レーントレーシングアシスト）.....217
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....201
RSA (ロードサインアシスト) 230
先行車発進告知機能.....244
ドライバー異常時対応システム247
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....233
LTA
（レーントレーシングアシスト）217
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..201

PKSA
RCD （リヤカメラディテクション）
..... 272
RCTA （リヤクロストラフィックアラート）..... 272
クリアランスソナー 272
PKSA（パーキングサポートアラート）
..... 272
PKSB（パーキングサポートブレーキ）
..... 286
RCD
（リヤカメラディテクション）.. 283
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
..... 279
REV インジケーター 73
REV ピーク..... 73
RSA
(ロードサインアシスト) 230
S-FLOW
フロント席集中送風モード 335
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）..... 31
TRC
（トラクションコントロール）302, 444
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）..... 303
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）..... 302
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）..... 302

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 434
アームレスト..... 358
ITS Connect..... 252
アイドリングストップ
Stop & Start システム..... 259
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 279
格納のしかた..... 146
操作..... 145
ブラインドスポットモニター（BSM）267
ポジションメモリー..... 127
ミラーヒーター..... 328
リバース連動機能..... 145
アクセサリーコンセント..... 359
アクセサリーソケット..... 359
アクセサリーモード..... 166
アクティブアシスト..... 202
アクティブスタビライザーサスペンションシステム..... 302
アクティブ操舵回避支援（PCS）.... 202
アシストグリップ..... 358
足元照明..... 344
アダプティブハイビームシステム... 183
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 302
アラーム
オートアラーム..... 58
音さくいん..... 470
警告ブザー..... 409
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 302
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 109

い

イージークローザー
ドア..... 100
トランク..... 106
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
エンジンのかけ方..... 164
自動電源 OFF 機能..... 167
車両を緊急停止するには..... 400
モードの切りかえ..... 166
位置交換（タイヤローテーション）..378
イベントデータレコーダー（EDR）.....6
イモビライザーシステム.....57
インジケーター（表示灯）.....66
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....70, 75
インテリアランプ.....344
インナーミラー.....137

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....396
方向指示レバー.....174
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー.....333
ウォッシャー.....189
パワーウインドウ.....148
リヤウインドウデフォッガー.....328
ウインドウロックスイッチ.....150
ウインドシールドデアイサー.....333
ウォッシャー.....189
液の補給.....377
スイッチ.....189
タンク容量.....449
冬の前の準備・点検.....313
動けなくなったときは（スタック）..444
雨滴感知式ワイパー.....189

運転
雨の日の運転 156
運転を補助する装置..... 302
寒冷時の運転 313
正しい運転姿勢 25
手順 156
運転支援機能情報表示 81
運転席シートベルト非着用警告灯... 412

え

エアコン
「ナノイー X」..... 333
花粉除去機能 333
曇り取り（フロントガラス）..... 328
フィルターの清掃 390
フロントオートエアコン..... 327
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
..... 335
リヤオートエアコン..... 337
エアコン・デフォッガー 327
エアサスペンション 299
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 410
改造・廃棄 37
警告ブザー 410
作動条件 32
正しい姿勢 25
配置 31
エコドライブインジケーター 79, 87
エコドライブインジケーターランプ.. 79
エレクトリックパワーステアリング
（EPS）..... 302
エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 164
エンジンイモビライザーシステム 57
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）..... 429
エンジンカバー 375
エンジンスイッチ 164
エンジンの始動方法 164
エンジンルームカバー 374
オーバーヒート 441
緊急時の停止方法 400
タコメーター 68, 71
フューエルポンプシャットオフシステム
.....408
ボンネット 372
エンジンイモビライザーシステム 57
エンジンオイル
警告灯.....410
冬の前の準備・点検 313
メンテナンスデータ 446
容量 446
エンジン回転計（タコメーター）.68, 71
エンジンスイッチ
エンジンのかけ方 164
自動電源 OFF 機能.....167
モードの切りかえ 166
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
車両を緊急停止するには 400
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....372
警告メッセージ.....100
エンジンルーム
エンジンカバー 375
エンジンルームカバー 374
エンジンルーム 372, 374
エンジンルームから蒸気が出ている...441

お

オイル（エンジンオイル）.....446
オーディオシステム連携表示.....81
オートアラーム 58
オートドアロック・アンロック機能 101

オートマチックトランスミッション
オートマチックトランスミッション .. 168
スノーモード 171
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動 182
オーバーヒート 441
オープナー
給油扉 194
トランク 104
ボンネット 372
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ 150
お子さまの安全のために 41
キーの電池 393
シートベルトの着用 27, 28
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告 340
チャイルドシート 42
チャイルドシートの取り付け 42
チャイルドプロテクター 101
発炎筒の取り扱いに関する警告 400
バッテリーに関する警告 439
パワーウインドウに関する警告 149
“ODO TRIP” スイッチ 70, 74
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 70, 74
“ODO TRIP” スイッチ 70
表示項目 70, 74
割り込み表示 70, 75

か

カーテシランプ
装着位置 344
カーテンシールドエアバッグ 31
カードキー 92
カーペット
洗浄 369
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示 68, 71
外装の電球（バルブ）
交換要領 396
買い物フック 354
過給圧表示 80
カスタマイズ機能 451
型式 450
カップホルダー 350
カメラ
前方カメラ（PCS） 195
白線認識用カメラ（LTA） 217
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 328
ガレージジャッキ 373
冠水路走行 161
寒冷時の運転 313

き

キー
エンジンが始動できない 429
カードキー 92
キーナンバープレート 92
キーの構成 92
キーレスエントリー 94, 109
キーをなくした 431
正常に働かない 432
施錠・解錠ができない 432
電子キー 92
電池が切れた 392
メカニカルキー 95
ワイヤレスリモコン 94
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 109
ワイヤレスドアロック 94
救急箱等固定用バンド 355

給油
給油口が開けられない..... 431
給油のしかた 193
メンテナンスデータ..... 446
緊急時シートベルト固定機構 28
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 429
オーバーヒートした..... 441
キーの電池が切れた..... 392, 432
キーをなくした 431
警告灯がついた 409
警告メッセージが表示された 417
けん引 403
故障したときは 398
車両を緊急停止する..... 400
水没・冠水したときは..... 401
スタックした 444
電子キーが正常に働かない..... 432
発炎筒 399
バッテリーがあがった..... 434
パンクした 419, 428
緊急ブレーキシグナル 303

く

空気圧（タイヤ）
タイヤ空気圧警報システム..... 380
メンテナンスデータ..... 449
クールボックス..... 352
区間距離計（トリップメーター）70, 74
曇り取り
フロントガラス 328
ミラーヒーター 328
リヤウインドウデフォッガー 328
クラクション（ホーン）..... 136
クリアランスソナー 273
警告メッセージ 275
操作 274
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ.....180
電球（バルブ）の交換 396
クリップ
フロアマット 24
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....233
グローブボックス 350
グローブボックスランプ.....350

け

警音器（ホーン）.....136
計器類（メーター）.....68, 71
警告灯.....409
RCD OFF 表示灯.....413
ABS & ブレーキアシスト 410
SRS エアバッグ 410
LCA 表示灯 413
LTA 表示灯 413
エンジン.....410
高水温.....409
シートベルト非着用 412
Stop & Start キャンセル表示灯.....413
スリップ表示灯 414
タイヤ空気圧.....412
燃料残量.....411
パーキングブレーキ表示灯 414
パワーステアリング 411
PCS 414
ブレーキ.....409
ブレーキホールド作動表示灯 414
ペダル誤操作.....411
ポップアップフード 410
油圧 410
警告ブザー
LTA.....220
RCD（リヤカメラディテクション）....413

ABS & ブレーキアシスト..... 410
SRS エアバッグ..... 410
LCA（レーンチェンジアシスト）..... 413
LTA（レーントレーシングアシスト）. 413
エンジン 410
高水温 409
シートベルト非着用..... 412
シフトダウン制限 173
衝突警報 201
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 238
低速時加速抑制 201
手放し運転警告（LTA)..... 228
トランク開 100
パワーステアリング..... 411
半ドア 98
半ドア走行時 100
プリクラッシュセーフティシステム .. 414
プリクラッシュブレーキ..... 201
ブレーキ 409
ブレーキホールド 414
ペダル誤操作 411
ポップアップフード..... 410
ボンネット開 100
窓開 149
ムーンルーフ開 152
油圧 410
リバース 170
警告メッセージ..... 417
傾斜センサー（オートアラーム）..... 60
化粧ミラー（バニティミラー）..... 361

こ

交換
キーの電池 392
タイヤ 386
電球（バルブ）..... 396
ヒューズ 394
交差点右左折支援 202
降車オートロック機能.....96
航続可能距離 78, 88
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）.....162
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 396
コートフック 358
コーナリングランプ 183
子供専用シート
取り付け方.....43
小物入れ.....348, 352, 355
コンソールボックス 351
コンライト（自動点灯・消灯装置）..180

さ

サイドエアバッグ 31
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 396
方向指示レバー 174
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
.....279
格納のしかた 146
操作 145
ブラインドスポットモニター（BSM）.267
ポジションメモリー 127
ミラーヒーター 328
リバース連動機能 145
サスペンションコントロール（PCS）
.....203
三角表示板等固定用バンド.....355
サンシェード
ルーフ.....151
サンバイザー 361

し

シート
正しい運転姿勢 25
チャイルドシート 42
調整 115, 122
手入れ 369
パワーイージーアクセスシステム 127
フロントシートリフレッシュシステム 120
ヘッドレスト 133
ポジションメモリー..... 127, 131
メモリーコール機能..... 129
リヤシートリラクゼーションシステム 125
シートヒーター..... 340
シートベルト..... 27
アクティブアシスト..... 30
イージーアクセスバックル..... 29
お子さまの着用 27, 28
緊急時シートベルト固定機構 28
正しく着用するには..... 28
着け方・はずし方 28
手入れ 369
妊娠中の方の着用 27
非着用警告灯 412
シートベルト非着用警告灯 412
シートベルトプリテンショナー
機能 29
プリテンショナー警告灯..... 410
シートベンチレーター 340
シートポジションメモリー ... 127, 131
G モニター 80
室内灯（インテリアランプ）..... 344
始動後走行距離..... 78
始動のしかた..... 164
シフト照明..... 344
シフトポジション..... 168
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ 169
シフトレンジの切りかえ 172
操作 168
リバース警告ブザー 170
車高調整
電子制御エアサスペンション 299
ジャッキ
ガレージジャッキ 373
車幅灯
電球（バルブ）の交換 396
ランプスイッチ 180
車両型式 450
車両仕様（スペック）.....446
車両データの記録 6
車両を緊急停止するには.....400
充電用 USB 端子.....357
瞬間燃費 78, 88
仕様（車両仕様）.....446
衝撃感知ドアロック解除システム 97
衝突時の急加速抑制 303
初期化
タイヤ空気圧警報システム 382
パワーウインドウ 148
ムーンルーフ 152
初期設定 465
助手席シートベルト非着用警告灯 ...412
侵入センサー（オートアラーム）.....60

す

水温計 68, 71
スイッチ
LTA.....223
PKSB.....288
TRC OFF.....303
VSC OFF.....304
アダプティブハイビームシステム.....183
イグニッション 164
インストルメントパネル照度調整..70, 75
ウインドウロック 150

ウインドシールドデアイサー..... 331
ウォッシャー 189
エンジンスイッチ 164
“ODO TRIP” 70, 74
シート調整 115
シートヒーター 340
シートベンチレーター..... 340
シートポジションメモリー..... 127
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 233
侵入・傾斜センサー OFF 60
ステアリングヒーター..... 340
Stop & Start キャンセル..... 266
スノーモード 171
タイヤ空気圧警報リセット..... 382
ドアミラー 145
ドアロック 99
ドライブモードセレクト..... 297
トランクオープナー..... 104
トランクオープナーメイン..... 108
トランククローザー..... 106
パーキングブレーキ..... 175
パドルシフト 172
パワーウインドウ 148
ハンドル位置調整 136
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 399
フォグランプ 188
ブレーキホールド 178
ヘッドアップディスプレイ..... 85
方向指示レバー 174
ホーン（警音器）..... 136
ポジションメモリー..... 127
マルチウェザーライト..... 187
ムーンルーフ 151
メーター操作 77
ランプ 180
リセット（タイヤ空気圧警報システム）
..... 382, 383
リヤウインドウデフォッガー 327
リヤカメラディテクション 284
リヤフォグランプ.....188
レーダークルーズコントロール.....233
ワイパー.....189
スタック.....444
ステアリングコントロール（PCS)..203
ステアリングヒーター.....340
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....136
ステアリングヒーター 340
パワーイージーアクセスシステム.....127
ポジションメモリー 127
メーター操作スイッチ 77
ステアリングロック 165
解除できないとき 165
警告メッセージ.....165
Stop & Start システム
警告灯.....413
システム情報表示 79
割り込み表示.....70, 75
Stop & Start システム情報表示.....79
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 303
電球（バルブ）の交換 396
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....313
スピードメーター 68, 71
スペック（車両仕様）.....446
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置.....109
エンジンの始動.....164
カスタマイズ設定.....451
緊急始動機能.....430
作動範囲.....110
正常に働かないとき 432
節電機能.....110
電波がおよぼす影響について 114
ドアの解錠・施錠.....96

トランクの解錠 104
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換..... 396
ランプスイッチ 180
スリップ表示灯..... 303

せ

清掃
外装..... 366
シートベルト 369
内装..... 369
ホイール・ホイールキャップ..... 366
レーダー 196
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 303
電球（バルブ）の交換..... 396
セカンダリーコリジョンブレーキ... 303
積算距離計（オドメーター）..... 70, 74
セキュリティインジケーター 57, 58
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 238
先行車発進告知機能..... 244
センサー
LTA 217
雨滴感知センサー 190
侵入・傾斜センサー..... 60
デジタルインナーミラー..... 140
ライトセンサー 181
レーダー 195, 268
洗車 366
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換..... 396
ライトセンサー 181
ランプ消し忘れ防止機能..... 182
ランプスイッチ 180
センターディスプレイ 320

そ

走行時間 78
走行情報表示 77
走行モード（ドライブモード）171, 297
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
.....380
速度計（スピードメーター）.....68, 71

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 396
方向指示レバー 174
ダイナミックリヤステアリング（DRS）
.....302
タイヤ
空気圧.....389, 449
空気圧警告灯 412
交換 386
チェーン.....313
点検 377
パンク応急修理キット 419
パンクしたときは 419, 428
冬用タイヤ.....313
ホイールサイズ 449
ランフラットタイヤ 379, 428
ローテーション（位置交換）.....378
タイヤが空まわりする（スタックした）
.....444
タイヤ空気圧
警告灯.....412
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択 383
機能について 380
空気圧バルブ／送信機について.....381
空気圧表示画面 380
警告灯.....412
初期化.....382

タイヤチェーン..... 313
タコメーター..... 68, 71
REV インジケーター..... 73
REV ピーク..... 73

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 313
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 54
シートベルトでの固定..... 52
選択方法..... 42
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
..... 175
警告灯..... 414
警告メッセージ..... 176
操作..... 175
冬季の注意..... 313
未解除走行時警告ブザー..... 177
メンテナンスデータ..... 449

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール..... 239

て

提案サービス機能..... 82
ディスプレイ
センターディスプレイ..... 320
ヘッドアップディスプレイ..... 83
マルチインフォメーションディスプレイ76
デイタイムランニングランプ..... 181
ディファレンシャル
フロントディファレンシャル..... 448
リヤディファレンシャル..... 448
手入れ
外装..... 366
シートベルト.....369
デジタルインナーミラー.....141
内装.....369
ホイール・ホイールキャップ.....366
レーダー.....196
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換.....396
ランプスイッチ.....180
デジタルインナーミラー.....137
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....328
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....396
点検基準値（メンテナンスデータ）..446
電子キー.....92
作動範囲.....110
正常に働かないとき.....432
節電機能.....111
電池が切れた.....432
電池交換.....392
電子制御ブレーキシステム（ECB）.302
電池交換（キー）.....392

と

ドア.....96
イージークローザー.....100
オートドアロック・アンロック機能...101
降車オートロック機能.....96
衝撃感知ドアロック解除システム.....97
スマートエントリー＆スタートシステム
.....109
チャイルドプロテクター.....101
ドアガラス.....148
ドアロックスイッチ.....99
ドアロックボタン.....99
ワイヤレスリモコン.....96
ドアカーテシランプ
位置.....344

ドアハンドル照明 344
ドアポケット 348
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 279
格納のしかた 146
操作 145
ブラインドスポットモニター（BSM）267
ポジションメモリー..... 127
ミラーヒーター 328
リバース連動機能 145
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 57
オートアラーム 58
時計 68, 71, 359
トップテザーアンカレッジ 55
ドライバー異常時対応システム 247
ドライビングポジションメモリー... 127
ポジションメモリー..... 128
メモリーコール機能..... 129
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 162
後退速度の抑制制御..... 162
ドライブモードセレクトスイッチ... 297
トラクションコントロール（TRC）. 302
トランク
イージークローザー..... 106
オープナー 104
キー閉じ込み防止機能..... 106
クローザースイッチ..... 106
警告メッセージ 100
電子キーが正常に働かないとき 432
トランクオープナーを使用できなくするには..... 108
トランク内の装備 354
挟み込み防止機能 107
パワートランクリッド..... 102
ハンズフリーパワートランクリッド .. 105
メインスイッチ 108
トランクランプ 106
トランスミッション
オートマチックトランスミッション...168
シフトダウン制限警告ブザー 173
スノーモード.....171
操作 169
パドルシフトスイッチ 172
メンテナンスデータ 447
トリップメーター 70, 74

な

内装
収納装備.....348
手入れ.....369
ナット
締め付けトルク 449
「ナノイー X」.....333
ナビゲーションシステム連携表示80, 83

に

ニーエアバッグ 31
荷物
積むときの注意 163
トランク.....102
トランク内装備 354
荷物固定用ネット 354

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....444

ね

燃費
給油後平均燃費 88
瞬間燃費.....78, 88
燃費画面.....87

平均燃費 78, 87, 88
燃料
給油 193
種類 446
燃料計 68, 71
燃料残量警告灯 411
フューエルポンプシャットオフシステム 408
容量 446
燃料計 68, 71

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 293
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 295
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 291
パーキングブレーキ..... 175
警告灯 414
警告メッセージ 176
操作 175
冬季の注意 313
未解除走行時警告ブザー..... 177
メンテナンスデータ..... 449
排気ガス 39
ハイビーム（ヘッドランプ）
アダプティブハイビームシステム 183
電球（バルブ）の交換..... 396
ランプスイッチ 180
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 396
ハザードランプ（非常点滅灯）
電球（バルブ）の交換..... 396
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 148
パワートランクリッド..... 107
ムーンルーフ 151
発炎筒.....399
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 396
バッテリー
警告灯.....409
搭載位置.....372
バッテリーがあがった.....434
パドルシフトスイッチ.....172
バニティ（化粧用）ミラー.....361
バニティミラーランプ
装備について 361
バリアブルギヤレシオステアリング（VGRS）.....302
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....396
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 150
閉めることができないときは 148
初期化.....148
操作 148
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...149
挟み込み防止機能 148
巻き込み防止.....148
パワーステアリング 302
警告灯.....411
パワートランクリッド.....102
パンク応急修理キット.....419
パンクした
タイヤ空気圧警告灯 412
タイヤパンク応急修理キット 419
ランフラットタイヤ 428
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 396
ランプスイッチ 180
ハンズフリーパワートランクリッド 105
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....136
ステアリングヒーター 340

パワーイージーアクセスシステム 127
ポジションメモリー..... 127
メーター操作スイッチ..... 77

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）..... 302
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）..... 303
ヒーター
エアコン・デフォッガー..... 327
シートヒーター 340
ステアリングヒーター..... 340
ミラーヒーター 328
非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換..... 396
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換..... 396
ランプスイッチ 180
ヒューズ 394
表示灯 66
日よけ（サンバイザー）..... 361
ヒルスタートアシストコントロール 302

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 435
ブーストメーター..... 80
フォグランプ..... 188
スイッチ 188
電球（バルブ）の交換..... 396
ブザー
シフトダウン制限警告..... 173
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 238
手放し運転警告（LTA）..... 228
パーキングブレーキ未解除走行時警告 177
半ドア走行時警告 100
窓開警告.....149
ムーンルーフ警告 152
リバース警告.....170
フック
買い物フック.....354
けん引フック.....405
コートフック.....358
フロアマット固定フック 24
フューエルポンプシャットオフシステム 408
フューエルメーター 68, 71
フューエルリッド（給油口）
給油口が開かない.....431
給油のしかた.....193
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....313
冬用タイヤ.....313
ブラインドスポットモニター（BSM）.....267
プラスサポート 309
プリクラッシュシートバック（PCS）.....202
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能 201
PCS 警告灯.....414
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 303
警告灯.....409
パーキングブレーキ 175
ブレーキホールド 178
メンテナンスデータ 448
ブレーキアシスト 302
ブレーキフルード 448
ブレーキホールド 178
フロアマット 24
フロントオートエアコン.....327
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）.....214

フロントシート
シートヒーター 340
シートベンチレーター..... 340
正しい運転姿勢 25
調整 115
手入れ 369
パワーイージーアクセスシステム 127
ヘッドレスト 133
ポジションメモリー..... 127
メモリーコール機能..... 129
リフレッシュシステム..... 120
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 396
方向指示レバー 174

へ

平均車速 78, 88
平均燃費 78, 87, 88
ヘッドアップディスプレイ 83
運転支援システム表示..... 86
エコドライブインジケーター 87
スイッチ 85
設定 85
走行状況表示 83
ナビゲーションシステム連携 83
割り込み表示 86
ヘッドランプ
クリーナー 189
電球（バルブ）の交換..... 396
ライトセンサー 181
ランプ消し忘れ防止機能..... 182
ランプスイッチ 180
ヘッドランプオートレベリングシステム
..... 182
ヘッドレスト..... 133
ベンチレーター（シートベンチレーター）
..... 340

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....386
締め付けトルク 449
メンテナンスデータ 449
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 396
方向指示レバー 174
ホーン（警音器）.....136
歩行者注意喚起（PCS）.....201
ポジションメモリー 127, 131
保証.....7
ポップアップフード 37
ボンネット
開け方.....372
警告メッセージ.....100
ポップアップフード 37

ま

マルチインフォメーションディスプレイ
.....76
運転支援機能情報 81
エコドライブインジケーター 79
オーディオシステム連携 81
Gear Position 80
警告メッセージ.....417
G モニター.....80
Stop & Start システム情報.....79
設定 81
走行情報表示.....77
タイヤ空気圧.....380
提案サービス機能 82
ドライブインフォメーション 78
ナビゲーションシステム連携 80
ブーストメーター 80
メーター操作スイッチ 77
メニューアイコン 76

割り込み表示 76
マルチウェザーライト 187
スイッチ 187

み

ミラー
アウターミラー 145
デジタルインナーミラー 137
ドアミラー 145
バニティミラー 361
ミラーヒーター 328

む

ムーンルーフ
初期化 152
操作 151
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 151
挟み込み防止機能 151

め

メーター
計器類 68, 71
警告灯 409
警告メッセージ 417
照度調整 70, 75
設定 81
時計 68, 71
表示・配置の切りかえ 75
表示灯 66
マルチインフォメーションディスプレイ76
メーター操作スイッチ 77
メーターリング 75
メカニカルキー 95
メニューアイコン 76
メモリーコール機能 129
メンテナンスデータ 446

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 451
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 444
油脂類 446

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 396
ランプスイッチ 180
ラゲージマット 354
ラゲージルーム（トランク）..102, 354
ラジエーター
オーバーヒート 441
メンテナンスデータ 447
ランプ
アダプティブハイビームシステム 183
コーナリングランプ 183
室内灯 344
電球（バルブ）の交換 396
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 399
ヘッドランプ（前照灯）..... 180
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 174
ライトセンサー 181
ランプ消し忘れ防止機能 182
リヤフォグランプ 188
ランプ消し忘れ防止機能 182
ランフラットタイヤ 379, 428

り

リバース連動機能 145
リモートタッチ 318
リヤウィンドウデフォッガー 328
リヤオートエアコン 337

リヤカメラディテクション
警告メッセージ 285
操作 284
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 279
リヤサンシェード 363
リヤシート..... 121
調整 122
ヘッドレスト 133
ポジションメモリー..... 131
リラクゼーションシステム 125
リヤシートリマインダー機能 98
リヤ席シートベルト非着用警告灯... 412
リヤドアサンシェード 361
リヤフォグランプ..... 188
スイッチ 188
電球（バルブ）の交換..... 396
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 396
方向指示レバー 174
リヤマルチオペレーションパネル... 322
リング（メーター）..... 75

る

ルームミラー（インナーミラー）.... 137

れ

冷却水
冬の前の準備 313
メンテナンスデータ..... 447
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 441
メンテナンスデータ..... 447
レーダークルーズコントロール
警告メッセージ 242
接近警報 238
レーダー 195
レーントレーシングアシスト（LTA）217
警告メッセージ.....229
操作 223
レクサスクライメイトコンシェルジュ
.....325
レクサスダイナミックハンドリングシステム（LDH）.....303
レバー
シフト.....168
方向指示.....174
ボンネット解除.....372

ろ

ロードサインアシスト（RSA）.....230
ロック
ウインドウロック 150
スマートエントリー＆スタートシステム
.....109
チャイルドプロテクター 101
ドア 96
ワイヤレスリモコン 94

わ

ワイパー＆ウォッシャー.....189
ウォッシャー液の補充 377
ワイパー停止位置の切りかえ.....191
ワイパーブレード（寒冷地用）.....314
ワイヤレスリモコン
作動の合図.....97
操作 94
電池の交換.....392
半ドア警告ブザー 98
ワックス 366

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・オーディオ
・パノラミックビューモニター
・ナビゲーションシステム
・音声操作システム
・ハンズフリー
・G-Link
・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

A ボンネットフック（→P.372）

B トランクオープナースイッチ（→P.104）

C 給油扉オープナースイッチ（→P.194）

D 給油口（→P.194）

E ボンネット解除レバー（→P.372）

F タイヤ空気圧（→P.449）

燃料の容量（参考値）	82L	
燃料の種類	・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ※エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。	P.446
タイヤが冷えているときの空気圧		P.449
エンジンオイル容量（参考値）		P.446
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.446

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

オ-16

M50L30
01999-50L30
NAC-2021年10月 21日
2021年10月28日 初版

LS500